大日本蠶絲會報

第三拾四號

明治二十八年四月

目次

●論說
◎桑葉の滋養分に就て　農學士　水多岩次郎
◎桑樹枝梢病に就て　農學士　理學士　堀　正太郎

●寄書
◎絹織物の奬勵に就て　橋本重兵衛
◎信濃上田太郎君が蠶種檢査法案に就き貴衆兩院議員諸公に與ふるの書を讀む（前號の續き）　關根髮次郎

●統計
◎二月中生絲屑物輸出數量元價及敢稅統計◎二月中絹布類輸出數量及元價統計

●問答
◎蟻の變色に就き質問并に答◎一化蠶飼育の件に就き質問并に答◎微粒子毒及其他の件に就き質問并に答◎蛆の病毒檢査法質問并に答◎蠶種貯藏器の件に就き質問并に答◎透絹病に罹れる桑の件に就き質問并に答◎蠶業收支計算に就き質問并に答

●外報
◎二十七年佛國養蠶の景況◎佛國養蠶景況◎組織に於ける本邦生絲の景況◎リーヲル氏人造絹絲

●雜報
◎第五回聯合共進會滿生絲審査報告◎博覽會出品調の概況◎四ヶ原蠶業試驗場の蠶況◎新潟縣の蠶況◎日向延岡の蠶況◎第二回全國蠶絲業大會◎四ヶ原同窓會◎蠶業學校の教育費補助◎養蠶學校設立建議案の通過◎新潟縣蠶業諮問會◎桑葉國蠶種檢査成績

●會員諸君に謹告す

拜啓陳ば本會も會員諸君の御熱心なる御賛成を得て日に月に着々隆盛の域に進みつゝ有之候は獨り斯業の爲めのみならず實に邦家の爲め慶賀の至りに候然るに爰に理事者の困難する一事あり他にあらず會員諸君の義務として年々出金せらるゝ制規の會費出金期限の相後るゝこと是なり其爲め理事者は本會事業擴張上に於て豫想外なる障碍に出會ひ充分に目的を達する能はざる場合に付事情御洞察會費延滯の諸君は至急御出金相成度此段特に謹告仕候也

明治二十八年四月

大日本蠶絲會

注意

一郵便爲替に御取組の節は拂渡局を東京神田郵便局に其受取人を東京神田區美土代町貳丁目壹番地大日本蠶絲會に御取計の事

一通運便にて現金御送附の節は配達賃必ず御拂込の事

一郵便切手代用にて御拂込の節は必ず一割增の事

大日本蠶絲會報第三拾四號

●論說

◎桑葉の滋養分に就て

於大日本蠶絲會第四回大集會演述

大日本蠶絲會技藝委員農學士　本多岩次郎君

私は桑の葉の滋養分に就て一言御話を致したいと思ひます、併ながら桑の葉の滋養分のことに就きましては、固より諸君等は十分に御經驗がありますから私が御話を申すまでもなく既に御承知のことと思ひますが、實際どう云ふものが滋養分であるか、どう云ふものが一番蠶に取ッて益の少なきものであるか、又どう云ふ成分のものが蠶に必要なものであるかと云ふことに就ては私は未だ十分なる話を聞きませぬ、夫れに就て私は少し取調べたともございますから夫れ等の事に就て聊か御話致さうと思ひます

御承知の通り諸君の精々御精勵になりまして得やうと欲せらるゝ生絲は何から出來るかと云ふと、其原料は桑の葉である、桑の葉を何が生絲になすかと云ふと即ち蠶が夫れを爲すのである、所謂蠶は器械であッて、桑の葉を蠶に與へ夫れから精製したものが生絲であります、夫れで蠶の種子は精撰しな

けれればならぬと云ふとは勿論のこと、即ち器械が完全せぬではどんなものでも必らず立派な物は出來ない筈であります、故に器械は十分に精撰しなければならぬ、即ち其器械たる蠶の種子は十分精撰しなければなりませぬ

一歩退いて考へますに、器械は完全して居つて少しも缺けて居る所がない、其の完全なる器械を用ひてさうして精良品を拵へやうとしても、原料にして若しも十分なる品でなかつたならば決して精良なるものは出來ぬ筈である、御承知の通り王子には大きな紙製造所があるが、此製造所に於ても十分なる原料品があつて初めて立派な紙を製するとが出來ます、夫れがさうでなくして襤褸なぞを以て立派な紙を漉かうとしても出來るものではない、譬ひ一と通り紙は出來ても夫れはやうやう新聞紙に使ふ位のものである、故に養蠶に於ても此原料たる所の桑の質を撰ぶと云ふとは尤も注意をしなければならぬことと考へます

然るに此桑葉のことに就て見まするのに、世間往々唯一桑の葉であれば宜いと云ふやうな考へを持ちまして、桑の葉の滋養分の有るや無しや、即ち滋養分の多少と云ふとに就て考へて居る人は殆んど少ない樣な有樣であります、夫れ故地方に往きて見ますと隨分痩地に生長せる山桑の如きもので蠶を飼ふて居る者もある、又桑と云ふものは殆んど肥料を用ひないで夫れより得たる葉を以て蠶を養ふと云ふやうな所もあります、最も是れは極端の話でありますが、幾分かさう云ふ傾きになつて居る所があります

又種屋等で意を注いて居る者は、十分桑に肥料をやつて、立派な葉を取つて、夫れで蠶を養ふて居ると云ふのは勿論のことであるが、概して云ふと其食料たる桑は唯々多くを得ると云ふ考へで、其質に就て彼是れ考へて居る者は少ない、然るに此質に就ては最も注意しなければならぬと云ふとは往々皆さんの御話を聽ても其通りであるし、又私も其事に就て感じたとがありますから、暫く其話を致さうと思ひます

先つ第一に御話するのは、其質に就ての結果はどう云ふものであるかと云ふとは、勿論今迄皆さんの御試驗もございますが、曾て野に生へて居る所の桑の葉と、十分に栽培した所の桑の葉、即ち十分に滋養分の有る所のものに就て試驗したことがありますから、夫れを述べやうと思ひます、其結果で見まするとと非常な違ひのものであつて、滋養分の少ない所の桑の葉で飼つたものは飼育日數が大變餘計掛ッて居る、隨ッて桑を餘計使はなければならぬ、又其滋養分の少ない葉に限ッて概して水分が餘計ある、夫れは色々の試驗の分析表を以て見ましても、又此前私がやりました試驗の結果に依りましても滋養分の少ないものは水分が多い、夫れで同じ桑一貫目やるにしても滋養分の多いものは其中に含まれて居る水分が少ない、故に滋養分の少ないと云ふのは一方には水分が多いと云ふことが伴ッて居ります

所で先年野桑、即ち野に生へて居る所の桑であッて、少しも肥料を用ひないものと、夫れから家桑と申して十分に肥料を用ひて少しも肥料分の缺乏と云ふとのない所の桑と、此二つのものに就て色々試驗をして見ました、所が此野桑を食ひました所の蠶は餘計食へば餘計食ふ程結果が悪るかッた、其結果の悪るいと云ふのは實に甚しいものであります、先づ其例を擧げて見ますると、此繭が終始家桑を食ふた蠶の繭である(實物を示す)是れは小石丸であるが同じ小石丸を一方は家桑で飼ひ、又一方は野に生へて居る桑即ち肥料を施さない滋養分の無い所の桑を以て飼ひましたが、此方(コナタ)はこんな小さいものである(實物を示す)蠶種は同じものであッて、同じ部屋で、同じ人が、同じ方法を以て飼ひましたのが此通りの結果である、單に是ればかりでない、飼育の日數に大變な違ひが起ッて居る、掃立てまして「まぶし」に上げるまでの日數が此方(コナタ)の家桑で飼ッた方は三十二日と二時間であッた、所が此方の野桑で飼ッた方であると、一齡中で既に一日以上も違つて居る、總躰にしまして三十九日と十八時間掛ッた、此方らと此方とは七日間以上も違つて居る、飼育の日數が延びれば夫れだけ手數も餘計掛るし、又桑も餘計やらねばならぬ、若し之が十分なる繭を結んだとしても餘計桑を要する譯である

さう云ふ樣な譯で以て、此方が餘計に桑を食い、餘計手數も掛りますが、夫れならば餘計桑を食ひ、餘計手數が掛かる爲めに絲の數量が多いかと云ふと、其結果は反比例であッて、此方らは玉繭だとか「ビショ」繭だとか云ふ悪るい繭を除けて、上繭ばかりが毛蠶壹匁に對して、二斗五升の割合である、

此方は上繭ばかりが六升九合から七升までの割合であります即ち毛蠶一匁に對して一方は二斗五升、一方は七升即ち薄附け一枚に改算しますると二斗八升ばかりである、家桑育の方は一石取れるにも拘はらず、野桑の方は斯く僅に三斗も取れない有樣でありますれば終始栽培した桑と、栽培しない桑即ち野に生へて居る桑をあてがッたものとは其差實に大なることであります

其次には掃立から四齡の終りまで漸々野の桑を以て飼ひまして、五齡即ち庭起から初めて普通栽培した滋養分のある桑を以て飼ひました、是れが其出來上ッた繭(實物を示す)で野桑ばかりで飼ッたものよりは上等であるが、終始家桑を以て飼ひました繭から見ますると ずッと此方が落ちます、さうして此日數はどの位かと云ふと野桑ばかりで飼ひましたものから見ますると一日早く上ッた、即ち五齡中普通栽培した桑を食ッた爲めに一日早く上ッた、割合であります又其收獲はどうかと云ふと終始野桑で飼ッたものは六升九合ばかり外取れませぬが、此方は八升一合も取れる、殆んど二升二合ばかり餘計取れた割合である、夫れで悪るい所の桑を餘計食へば餘計食ふ程其結果が悪るくて、單に收獲の少ないばかりではない、繭の品質に於ても非常に劣る所があります

今迄のは漸々初めから肥料の無い所の桑を以て飼ッて來たのでありますが、今度は夫れを反對にして一齡迄は十分肥料を施した良い桑を與へましたけれども、二齡から以後は山桑、即ち肥料分の無い桑を與へましたものと、三齡、四齡、五齡からと漸々先の方に至ッて山桑を用ひて、さうして蠶を飼ッ

た所が矢張り前と同じやうな結果でありました

是れは赤熟で以て試驗をしましたが、之れが（實物を示す）初めから仕舞まで普通栽培した桑、即ち滋養分の十分有る所の桑を以て飼ひました所のものであります、夫れから一齡中に滋養分のある桑をやつて、二齡から後は皆野桑を以て飼ッたもの、即ち同じ赤熟の種子であッて、一方は終始培栽桑をやり、一方は一齡中は栽培した桑をやり、二齡から山桑の如きもので飼ッたのでありますが、此通りの違ひが起ッた（實物を比較して示す）

此度は三齡から山桑を與へたものはどうかと云ふと、一齡だけ餘計栽培した所の桑を食ひましたから是れから（前者を指す）見ると幾分か善い、即ち斯う云ふ樣な有樣であります、（實物を示す）其次には四齡から山桑で飼ッたのはどうかと云ふと、又是れから（前者を指す）較べて見ますると幾分か善い、夫れから四齡まで普通栽培した所の桑をやり、五齡即ち庭起から栽培しない滋養分の無い所の桑をやりましたものはどうであるかと云ふと、是れ（前者を指す）よりは幾分か善い、是れで見ますると此繭は非常に順序立ッて居る、是れから是れ、是れから是れと漸々善くなッて、此繭が一番善い、假令五齡中だけでも十分肥料分の有る所の桑をやらなかッたから、是れと（終始家桑を以て飼ひたるものを指す）是れとは非常な差であります

尙只今述べましたる各種繭一升の粒數を調べて見ますると、初めに申した小石丸の終始家桑を以て飼ひましたものは一升の粒數は二百九十一顆の割合であります、然るに終始野桑をやりましたもの、即ち栽培を施さない桑をやッた方は三百五十七此方（ヒツ）（五齡中家桑を以て飼育したるものを指す）になると三百四十六、即ち此方は少し大きいけれども尙ほ之に（終始家桑を以て飼育したるものを指す）及ばないことは非常なものであります、赤熟の試驗の方は非常に差が甚しい、なぜ甚しいかと云ふと赤熟は小石丸に較べると餘程進化した蠶でありますから、僅の障害を受けても其障害が甚しく身躰に感ずる、故に小石丸で試驗したのとは赤熟の方が甚しい違ひを生ずるのであります夫れは畢竟蠶が進化して居るから夫れだけ身躰が弱く、僅の害でも非常に感ずるのであります

此方は終始栽培した桑をやッたのですが、是れは一升の粒數が二百六十五、夫れから一齡迄は普通栽培した桑をやッて、二齡から後ち栽培しない桑をやッた方は四百〇七、一方は二百六十五、一方は四百〇七、非常な差が起ッて居る、三齡から野桑をやッた方はどうかと云ふと三百九十三、四齡から野桑をやッたのはどうかと云ふと三百二十六、五齡になッて野桑をやッたのは三百十七と云ふ割合であります、夫れでありますから假令五齡一齡中でも普通栽培した桑をやッたものは非常な違ひであります

蚕に夫れのみならず其收獲に大變違ひが起ッて居る、終始栽培した所の桑をやッた方は毛蠶一匁に對して上繭だけが二斗六升三合、二齡から野桑をやつた方は二升七合即ち殆んど十分の一の收獲であり

ます、三齡から野桑をやッた方は僅三升、四齡から野桑をやッた方は七升、五齡ばかり野桑をやッた方は一斗ばかり取れたと云ふ有樣である、一斗と云ふても半作にも足りませぬ

又飼育の月數が小石丸の方に於ても大變違いがありましたが赤熟の方に在ても亦大變な違ひがある、此終始栽培した桑で飼ひましたものは三十三日と二十時間で上簇し、五齡中野桑をやりました方は夫れに較べますと十七時間後れて上簇し、四齡から以後野桑をやッた方は三十二時間後れ、夫れから三齡から以後のものになると百時間、二齡以後のは百十八時間後れました、卽ち桑の善惡に依つて飼育の日數も後るれば收獲も十分ないから、最も桑の質に付ては調査しなければならぬとと考へます

固より栽培した桑の葉と、野に生へて居る桑の葉とは、滋養分に甚しい違ひがあるから此通りの結果であるが、僅の違ひがあつても矢張り飼育の日數なり、收獲上に幾分の違ひが起るのは當然である、是れは普通栽培した桑と野に生へて居る桑との試驗であるが、又一方に於ては所謂世間で云ふ、縮葉病に罹ッた桑に就ても夏蠶（ナツゴ）の四齡の初めから試驗をしました、彼の萎縮病、卽ち縮み葉と云ふはどう云ふとから起るかと云ふに、其原因はまだ中々分りませぬ、夫れに就ては說のあるとであるが、其說も確かなとは分らぬから到底原因のとは分りませぬけれども、兎に角萎縮病に罹つて彼の通り葉の縮むと云ふは滋養分が十分無いと云ふ結果に違ひない、滋養分が十分にあれば彼の通り縮むと云ふとはない、故に彼れを以て蠶を飼ッたならばどう云ふ違ひがあるかと試驗をして見た所が是れ亦大變違ひがある、是れは夏蠶に就て試驗したと云ふのは春蠶（ハルゴ）の時には縮み葉が餘計ない、夏蠶の時に餘計あるから夏蠶に就て試驗をしましたが、其試驗しましたのは四齡まで同じ樣にして飼つた蠶を二つに分けまして、四齡の桑附けの時から一方には普通栽培した桑を與へ、一方には縮葉病に罹ッた桑を與へました、所が其葉は固より滋養分が少ない爲めに發育が十分出來ない、發育が十分出來ない桑を食つた爲めに其蠶は身體が大きく出來なくて上簇に掛りました、一方の普通の桑を以て飼ふたものは熟蠶百匹の重さが六十匁あつた、一方の縮み葉で飼つた所のものは僅に五十一匁でありました百匹に付て九匁の違ひが起つた、隨つて十分の繭も出來ず、又十分繭が出來ないばかりでなく此收獲の量と云ふものが大變減じて居る、其の量は夏蠶の毛蠶一匁に對して普通の桑で飼つたのは二斗三升の割合であるが、萎縮病に罹つた桑で飼ッたものは一斗二升外ない、殆んど二分の一の收獲しかない譯である、其樣に方法は同じ樣にして飼ッても桑の葉に依ッて非常な違ひである、僅の違ひではございませぬから桑の葉のとに就ては十分に調査をせねばならぬとと思ひます、

此萎縮病に罹ッた桑又野桑と普通栽培した桑とに就ても同じく非常な違ひがある、一方は栽培して十分滋養分のある善い桑一方は惡るい桑の場合は其悪隔が甚しいから隨つて此通りの結果が出來て來るが、併ながら僅の違ひでありましても失張り收獲上に幾分の違ひがあると云ふとは明なとである、皆さんも御承知でありませう、曾て西ヶ原で桑質試驗をしたとがあります、其時は市平とか、白早生と

か、節曲とか、又赤木、十文字、鼠返し、魯桑、高助杯で飼ひました、飼ひました所が其結果と云ふものは明かに分りませぬけれども、彼れ是れ等差があると云ふことを滋養分から較べると能く之が明かに分ります、卽ち先年やりました桑質試驗では、白早生と市平とは市平の方が結果が善かつた、そんなら滋養分はどうかと云ふと矢張り白早生の方が滋養分は劣つて市平の方が優つて居る、魯桑なり、赤木なり、色々試驗しました結果を桑の質の計算から考へて見ますると、矢張り質の良いものは結果が良いと云ふ譯であります、此通りと明には分りませぬが、結果の上なり、又桑の質の滋養分の上から見ますると滋養分と結果は殆んど一致して居る有樣でありました

夫れならば桑の中の滋養分と云ふものはどう云ふものが滋養分であるかと云ふと、是れは私が申さぬでも御存知でござりませう、滋養分と云ふものは卽ち桑の中に含まれて居る蛋白質である、是れが第一、夫れに次では脂肪――あぶらでござります、其次は可溶炭水物、卽ち澱粉の如きもの卽ち此三ッのものはどうしても調査しなければならぬ、此三ッが有ッて此桑の滋養はどの位のものであるかと云ふとの判斷が附きます

夫れから一ッ注意しなければならぬとは纖維でござります、是れは普通の動物、人間だとか、犬だとか、猫だとか云ふものは纖維でも幾分か消化します、其消化したるものは血液に混じて身躰を巡廻しまするが、蠶に限ッて毫も消化しない、例へば一匁の纖維を與へると、矢張り一匁の纖維が糞になッて出る決して以前の量と少しも變はらない、卽ち其纖維と云ふものは蠶に取ッて毫も効能がないのみならず、纖維の多量にあるときは却ッて蠶に害を及ぼす傾があります、故に成るべく纖維の無いものを欲するのであります

夫れで桑の善い悪るいを見るには、第一蛋白質、第二脂肪、第三可溶炭水物、此三ッを見て初めて善悪を知らなければならぬ、卽ち滋養分とは此三ッのものであるから、此三ッのものを見た所でどれがどの位あッた時分には他のものとの比較はどう云ふものであるか、甲乙二ッの葉があッて、此方と此方と使ッたらどッちが善いかと云ふことを精密に知らうと云ふには又一ッの方々があります、夫れは唯ちよッと見たばかりでは善い悪るいの判斷は附かない、甲の桑の滋養分の價値を見出して乙の桑に較べて滋養分があるとか、或は無いとか鑒定を附けなければならぬ、其鑒定を附けまするにどうして附けまするかと云ふと、どうしても分析表に據ッて其結果で以て夫れに含んで居る、蛋白質、夫れから脂肪、夫れから可溶炭水物此三ッのものを見出して其三ッのものに依つて初めて此桑の滋養分はどの位と云ふことを見出さなければならぬ、夫れを見出すにはどうするかと云ふと、蛋白質、脂肪、可溶炭水物の此の三ッの分析表を見て割合を取らなければならぬ、さうして蛋白質と脂肪と可溶炭水物はどう云ふ價値の割合であると云ふことを知らなければならぬ、是れは色々の試驗の結果から割出したのですが、其割合はちよッと三二一、一の割合でござります、卽ち蛋白質が三で、脂肪が二、可溶炭水物

が一と云ふ割合になる、故に可溶炭水物が三十目あれば蛋白質は十匁あるのと同じ價値である、又脂肪が二十匁あるのも夫れと同じ價値である、丁度此割合は三、二、一でございます、其分析表を見て蛋白質に三を乘け、脂肪に二を乘け、可溶炭水物に一を乘けて夫れを加へたものが初めて其ものゝ滋養價になる、其甲と乙との滋養價を見出して其滋養價の餘計あるものが即ち滋養分が餘計あると云はなければならぬ、先年西ヶ原試驗場で市平と白早生に就て桑質の試驗をしましたが、市平の方は其結果が善かッた、市平の方が善かッたのはどう云ふものであるかと云ふて、滋養價を較べると市平の方が優ッて居るから市平が善いと云ふ結果の起ッたのは決して偶然のことではありませぬ、即ち夫れをやッて見まするとと丁度斯う云ふ工合になる

分析表で見まするとと市平の方は蛋白質がどの位あるかと云ふと、百分中九、〇六ある、夫れから脂肪がどの位あるかと云ふと一、七三ある、夫れから又可溶炭水物はどの位あるかと云ふと八、六〇ある、白早生の方は蛋白質が八、六九ある、夫れから脂肪が一、一〇ある可溶炭水物が一〇、九四ある、此分析の結果によりて市平の滋養價と、白早生の滋養價を比較して見やうと思ふときは九、〇六に三を乘け一、七三に二を乘け八、六〇に一を乘け、此三ッのものを加へたものが市平の滋養價である即ち其計は三九、二四となる、白早生の方も亦八、六九に三を乘け一、一〇に二を乘け、一〇、九四に一を乘け、此三つを加へまするとと三八、二一となる、是れで見まするとと市平の滋養價は三九、二四白早生の滋養價は三八、二一であります、さうするとと市平の方が一、〇二だけ滋養分が餘計ある割合であるから、市平と白早生の比較上、市平の方が滋養分があると云ふとは明かである、先年やりました飼育の結果も市平は白早生に較ぶれば善くありました、斯う云ふ樣な割合にしますれば桑の葉の滋養價はどの位あるかと云ふことを判斷するとが出來ます

又甲の畑と乙の畑とに於て百貫目の桑の直段が違ふとすれば、ちよッと考へまするとと誰も價の安い方を買はうとしまするが、唯一安いと言ッて其方に目を眩ましてはならぬことです、必らず滋養價を見て果して夫れだけの滋養分が有るや無しやを見出さなければならぬ、今假りに市平と白早生に就て見まするには、市平は百貫目の價を九圓二十錢、白早生の方を九圓とする、時には白早生の方は二十錢安いが、何方を取るかと云ふ場合に當りまして、唯一直段から見ますれば固より一方は九圓、一方は九圓二十錢であるから普通市平を取らずして白早生を取ると云ふことには當り前であるが、是れは唯一價の高低に付てのみ善い惡るいを附けたのであッて、其實は果して夫れだけの滋養分があるや否やを見て判斷をせねばならぬことです、其判斷をするには前に云ふ滋養價と較べて、果して夫れだけの價があるや否やを調べなければならぬ、即ち滋養價を見るのにはどう云ふ工合にするかと云ふと、市平の方は三九、二四だけ滋養價があるから、之を九圓二十錢で除ると一圓に對してどれだけの滋養價があるとと云ふことが出る、其滋養價はどの位かと云ふと四、二六五と云ふものが一圓に對する滋養價である、

白早生の方はどうかと云ふと矢張り滋養價の三八、二一を九圓で除る、さうすると四、二四六と斯う云ふ割合になります、市平は一圓に對して四、二六五の滋養價がある、白早生の方は四、二四六となる斯う云ふ割合になりますれば、白早生の方は同し百貫目に對する直段は安いが、一圓に對する滋養價は四、二四六となッて居る、さうすれば直段から云へば白早生の方が安いが市平の方が滋養價が多い、即ち百貫目の價格より申せは市平は高いが、一圓に對する滋養價は市平の方が多いから、どうしても市平を買はなければならぬと云ふことになります

夫れでございますから此滋養價を知ると云ふとは養蠶家の最も注意しなければならぬとであります、唯一百貫目の價が高い、安いと云ふとを以て、安すい方に目を眩まされて其方を買ふと大に間違が起りますから、こゝらは十分御注意にならねばならぬと思ひます、是れ等のことは養蠶の上に就て非常な關係が起るとである、尤も精密に調査するにはどうしても分析に據ッて調べなければならぬが、夫れ等の方法は大躰に就て御承知でなければ御損が行かうと思ひます

其他簡單に此桑の滋養分の有るか無いかを見るには、どうして見るかと云ふと、桑の葉を手の平の上に置いて摩擦ッて見ると、若しも手の平の上で摩擦ッて、ぼろぼろにほどれるものと、粘ばり氣のあるものと二ッ種類があれば、何方が滋養分があるかと云ふと、ぼろぼろにほどれる方が滋養分があります、普通の當業者は少し粘ばりがあると肥やしがきいて居ると云ふ樣な考へを持ッて居るが夫れは間違ッて居る、手の平の上にばらばらにほどれてさらついて居る方が滋養分が餘計ある、肥料分が餘計きいて居ると云ふのであるから、普通當業者が即席の判斷法はさう云ふ方法でやれば簡單に分る、是れは大まかなことであッて精密なことを見るのには夫れ相當の滋養價を見出して、果して此桑と是れとはどちらが價があるかと云ふ判斷を附けなければならぬ、其年の有樣に依ッては桑の葉に非常な豐凶を來たすものでございますが其桑の葉に滋養分があるか、無いかは肥料が十分にきいて居るかきいて居らぬかに大いに關係する、固より桑の質に依つて幾分か違ひはありますけれども、其質に依つて違ふよりは寧ろ肥料に依つて桑の葉に含まれて居る滋養分の違ふと云ふ方が甚しい、夫れでございますから此桑を栽培するに就きましては、どうしても肥料のとに就て十分研究しなければならぬ、又肥料を十分やらなければなりませぬ

曾て佛蘭西人のカルノーと云ふ人は三種の土地に付て試驗したとがあります、夫れは日蔭の土地が一箇所、日當りの善い土地が二箇所、此三箇所で試驗した、其日蔭の土地はどうであるかと云ふと少しも肥やしを用ひないで桑を栽培した、日當りの善い土地は一方は肥料を十分にやるし、又一方は肥やしをやらない土地でありました、然るに其試驗の結果と云ふものは非常な違ひであります即ち此の表の如くであります

桑葉百分中

	窒素	無窒素有機物
施肥せざる蔭地	六、四九	一八、七一
同　陽地	五、八八	二六、一七
施肥せし陽地	七、七四	二三、四九

一番初めのものは肥料を施さない日蔭の土地、中のは肥料は同じく施さないが太陽の光線は十分に受けて居る土地、終りのは肥料も施し、日當りも十分善い土地、此三つに就て栽培した所が、桑葉は窒素無窒素有機物（澱粉、纖維、可溶炭水物等の類）等の比例が非常に違つて居ります、卽ち肥料を施さない日蔭に栽培したものは窒素が非常に少ない、肥料を施した日當りの善い土地に栽培したものは窒素が七、七四あるのに此方は六、四九しかない、非常に違がつて居る、此通りに日向の地に栽培したるものは窒素が餘計あると云ふのはどう云ふ譯であると云ふと、太陽の光線が十分に當るから土地に這入つて居る滋養分が能く分解する、日蔭の方は太陽の光線を十分受けないから滋養分の分解が少く雨の爲めに滋養分は流れて仕舞つて、土地に含まれて居る窒素質が僅であるから右の如き結果である、是れ等は肥料を施すと施さぬとに依つて非常な違ひがあります

右述べましたる通りに非常な違ひが起りますから滋養分のある桑を得やうとするには十分に肥培を懇ろにして滋養分のある桑を栽培し、夫れを以て蠶の飼育に供せんければならぬと思ひます、まだ申すともありますけれども今日は此位で止めて置きます（拍手喝采）

◎桑樹枝枯病に就て

於大日本蠶絲會第四回大集會演述

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　理學士　堀　正太郎君

愛知縣で調べました所の桑の枝枯病と云ふ一種の病氣がございますから、其事を極く手短かに御話を申します

桑の枝枯病と申しますのは餘り澤山ございませぬ所の病氣でございますけれども、偶ゝございますと甚しき大害を致す所の病氣でございますから、一應御參考までに御話を致して置きます、重に調べましたのは愛知の丹羽、葉栗兩郡内でございまして、又一箇所は岐阜縣の羽栗郡でございます、木曾川を挾んで愛知縣下と兩方、前記の三箇所に多く此病氣がございました

此枝枯病と云ふのは重に枝が枯れるから枝枯病と云ふ名稱を下しましたのでございますが、其實色々な名稱がございまして「ミヅガレ」病「ミヅクサレ」病「ミヅカブレ」病「キリクイ」病或は立枯病と云ふ樣な名がございます、此處に御出席の方々の中には或は外の名がございまするかも知れませぬが、兎に角枝枯病と云ふが一番穩當な名稱であらうと思ひます

なぜさうかと云ふと、段々能く調べて見まするに、唯ゝ枝だけが枯れるのでございますから、立枯などと云ふ樣な名では餘程範圍が廣うございますからして、ちよッと病氣の名を聞てもどう云う病氣で

あらうかと云ふ觀念が起り惡ふございます、故に成るべく其病氣の性質を現はした所の名稱を附けるが便利でございますから、私は重に枝枯病と云ふ名稱を撰んだのでございます

夫れで此「ミヅクサレ」とか或は「ミヅカレ」とか云ふ名の起りました譯は「ミヅ」と云ふのは桑の花と云ふ意味であるさうでございます、群馬縣の一地方では「メド」と稱へ、又山形邊りでは「ミヅ」と申します、重に桑の花を指して云ふのである所で愛知縣で「ミヅクサレ」病又は「ミヅ」枯病と云ふのは、桑の花が腐つて起る病氣であると云ふ桑樹栽培家の說でございますから夫れで「ミヅクサレ」或は「ミヅガレ」と云ふ名稱が起たのでございます、然るに段々能く調べて見ますると唯花の有る無しに關係せず、桑の芽の出る時分には必らず此病氣に罹りて枝が枯れるのでございますから、枝枯病と云ふ名稱が極く穩當であると思ひます

私は此病氣の御話をする積りでちょッと麁末な圖（圖を示す）を書きましたから、私の訥辯を補ふ爲めにこゝに携へて參りました、御覽の通り葉が三つばかり出ました時に俄に葉が萎れまして、終に枯れて仕舞ふのでございます、重に枝の先の方に起る所の病氣でございますが、根刈又は中刈桑でありますと梢條全躰が梯際から枯れることもございます

昨年愛知縣にて此枝枯病の狀況を調べましたに殆んど丹羽、葉栗兩郡內の立桑は悉く此病氣に罹つたと云ふても宜しい位でありました、桑園に這入ッて見ますると丸で赤くなつて、枯桑の桑園であるかと思はれる位ゐ酷い有樣で凡そ一割乃至五割の損害でございました、所が根刈桑であると餘程此病氣が少なうございます、東京でも西ヶ原の試驗場に一昨年少しございましたが、僅に二三株位のことで濟みました、愛知の名古屋市でも見ましたが丹葉、羽栗兩郡の樣な酷ひ勢はございませぬでした、昨年の五月往ッて實地取調べました處が、折能く其病原を發見致しましたから四五日前愛知縣に其報告書

桑樹枝枯病之圖

を出しました、今日御話致しますのは即ち其中の要々な點だけを單簡に申上るのでございます

此枝枯病と申しますのは一種の害菌が寄生をして夫れが爲めに枯れるのでございます此害菌は子嚢菌に屬する一種類でございまして、桑が春芽を出さうと云ふ頃に至りますと此寄生害菌も亦地中にあつて芽を出して胞子即ち種子に相當するものを生じます、此胞子が風に吹き散らされて桑の芽に附着き、夫れから菌絲と申すものを生じて芽の中に浸入致します、夫れから桑の枝の甘皮の部分を傳て上方に蔓延しますから害菌の這入ッた所から上の方の枝はすッかり枯れて仕舞ひます、故に枝の皮が能く剝ける樣に腐りまして「アルコホル」の香が致します、斯く枝が枯れて五月半ば頃に至りますと黑い一種の塊が皮の下に出來ます、之れを菌核と稱へます、此黑い塊が皮の上に出來るのは芽から這入ッた害菌の菌絲が一ヶ處に集て成ッたので、圖の(二)と記した處は即ち菌核を現はしたのでございます、此れが詰まり來年起る處の枝枯病の病原となる所のものでございます

斯の如く此菌核病(菌核を生ずる病氣は皆菌核病と云ふ)は今御話申したやうに胞子が初め桑の芽の出る時に這入り込んで、夫れから菌絲を伸して上の方に進んで行く爲めに害菌が這入ッた所から上の方の枝は丁度頸を縊られたやうに養分の通ひ路を絶たれますから枯れて仕舞ひます、此病氣は重に立桑の方に劇しく起りますが一躰なぜさうであるかと云ふと、立桑の方でありますと病氣に罹ッた枝が刈り取らずに跡に餘程殘ッて居りますから、病毒が殘りますそれで此病氣が流行致します、所が刈桑でありますと樣際から皆枝を刈取ッて仕舞ひますから此病氣の種を殘すことが少ない、隨つて此病氣を起すことが少ない道理でございます、其處で此枝枯病の特徴でございますが、どう云ふのが枝枯病であるかと云ふことをざッと御話して置くと、後來之れに似寄た病氣が何處かに起ッた時に眞の枝枯病であるかないかと云ふ事が直に判りますから大層便利であらうと思ひます

枝枯病は春桑の芽の出る頃に起るものである、

枝枯病は突然に、恰も水が無くなッて仕舞ふた樣に葉が萎ほれまして、前日迄青々としてあッた所の桑の芽が俄かに一夜の間に萎ほれて下に垂れると云ふのが一ッの特徴でございます、

夫れから間もなくすると萎ほれました新芽の附いて居る枝か段々皮が柔かくなッて「アルコホル」の香がして、手が障ると皮が剝けるやうになる是れが亦一ッの特徴でございます、

夫れから彼れ是れ十五日か二十日すると枝が丸で赤く枯れて仕舞ッて、皮に皺を生じ、さうして乾いて仕舞ひます、此時に皮の下に黑い圖に記してあるやうな塊が出來ます、是れが即ち菌核と稱へますものでございます此の躰で一年を經過しまして來春まで活て居ります

コう云うやうな順序を經て桑の枝枯病が起りますから、之を豫防するには先つ葉が萎ほれると直ぐ其枝を切ッて仕舞ふのが一番安全でありますが、さうしなくッても養蠶繁忙の期節を避けて少しく暇になつた時、其枯枝を切ッても仔細はございませぬ、けれども餘り遲くなると菌核が剝けて落ちますか

ら用心せなければなりませぬ、微の種類に依ッては直ちに種子を拵へまして、それから夫れへと段々蔓延して行くやうな種類の病氣もございますが、此枝枯病に限りましてはさう云ふ風な種子を拵へませぬ、一旦起た病氣は其儘で病毒は脇に散らずして、枝の中に殘ッて居る病氣でございますから、傳染の憂はございませず誠に安全な病氣でございます、けれども圍核即ち黑い塊は來年まで殘て又枝枯病の種になりますから、是れさへ散らないやうに殺して仕舞ッて置けば決して恐れる病氣ではございませぬ、夫れで枝が枯れますと其病氣に罹つた枝丈を纏めて脇の方に積んで置いて、乾かして燒棄ると云ふのが一番安全である、養蠶が濟んで後に桑の樹の株直しと稱へて枝を切りますが、病氣にかゝつた枝と健全な枝と一處にするのは甚だ害がございます、病梢は必ず別に集めて度々運搬しない樣にせなければ圍核が剝けて地上に落ちますから此點は餘程注意を願ひます（拍手喝采）

●寄書

◎絹織物の奬勵に就て

大日本蠶絲會技藝委員
英國蠶絲鑑定師　橋本重兵衛

我國絹織物は明治六、七年頃より輸出し來りしが其の品類は概ね薄琥珀、繻子等にして極めて少量なりき、然るに去る十六年頃より初めて絹羽二重の輸出をなせり其の値百目に付て大凡五圓五十錢乃至五圓九十錢の間を往來せり、翌十七年三月下旬より六月迄は大に昂騰して七圓六十五錢の高値を現はせしが漸く下落して五圓三十五錢に至れり、仝十八年一月は五圓八十五錢に初り八月に至り一層低落して四圓七十五錢とはなれり（此時を羽二重第一の安値となす）

翌十九年は五圓五十錢に起り八月下旬に至り六圓八十錢迄引昂げしに又六圓迄引落したり然れども十二月に至り更に六圓九十五錢の高値を示せり、仝二十年一月は七圓二十錢なりしが漸々下向となり五圓七十五錢に止まれり、仝二十一年には五圓四十錢乃至六圓の間を上下せり、翌二十二年三月は六圓十五錢に初り十一月に至りて五圓七十錢の安値となれり、二十三年二、三月の頃は六圓五十錢位なりしが十二月に至り五圓六十五錢に降れり、仝二十四年には五圓七十五錢に初り七月に至り四圓九十錢の安値となり十月下旬に至り漸く五圓六十錢に恢復し十二月に至り又五圓五十五錢に降れり、翌春は五圓に起り十月下浣景氣稍増し六圓十五錢を示し十二月に及んで五圓五十錢となれり、仝二十六年一月中は五圓八十五錢位なりしが三、四月頃七圓五錢に騰貴し十二月に至りて更に五圓九十錢に低落せり、

我國絹織物の高低浮沈の沿革略ぼ此の如し（上州桐生羽二重市場の相場に據る）

我國絹羽二重の海外輸出地は重に米國にして概ね「ハンカチーフ」に製造して送るを常とせしが近來「ハンカチーフ」よりは却て反物の儘にて送るの傾あるは抑も米國中流の婦人社會に於て之を衣服となし或は男子服の裏地となすが故なり、元來婦人は其態度の如何に心を焦す者にして絹羽二重が他の毛布織物に比して伸縮自在能く其意に適し殊に價の低廉にして永久に耐ゆるを以て大に彼等の嗜好を促し彼地一般に流行するに至れるなり、今日の有樣より爾後此絹羽二重及甲斐絹紋織等の如き輸出額の

増加す可きは日を期して俟つべきなり

元來歐米に於ては我國絹羽二重は最下位の織物にして且つ薄利なるを以て之を織るも益なきを知り未だ曾て之を織ることをなさゝりしと云ふ

昨年桐生地方より創めて輸出せし甲斐絹紋織は佛國人ジヤカード氏發明の器械を以て織りし物なるが其値百目に付き十五、六圓の高値なるにも拘らず續々需用者ありて遂に其需用を充すと能はざりし、斯く好景氣なるは要するに品質の精良と需用者の嗜好に適せしに據るものなれば機業家は大に奮て以て宜しく機に依り變に應じ勉めて彼等の嗜好に適切ならんことを要す

然れども彼の地模倣的の繻子、琥珀織等の如きは輸出せざる方可なるが如し如何となれば是等の技術は已に彼等の熟達する所にして徒に彼等の嫌惡を來す耳ならず又及ばざる遠ければなり、宜しく我國の固有獨特の風致ある品物を織出さんことこそ所望なれ（現に去る明治二十六年我國より米國博覽會へ出品せし摸造的絹織物の不結果なりしを見て知る可し）

素製の白絹羽二重の如きは元と既製品にして未製工品なる生絲に比し利益も亦多ければジヤカード氏の機械を以て甲斐絹紋織等を織るに於ては猶一層の高評を博すべし願はくは當業者未製工品より既製工品として海外輸出することを勉められんことを、以上絹織物奬勵に就ては聊か意見の存する所を陳べたりしが今此結論に際し最も當業者の注意を要すべき輸出稅全廢の尙早論を略記せんとす

凡そ國勢の進むに從て百難を排拆し諸般の妨礙を除去せざる可らざるは古今の常にして近來我國の輸出稅全廢を唱ふる者益々多々なるは是れ亦趨勢の然らしむる所なり、然れども世の全廢を唱ふる者未だ輸出稅全廢の何たるを解せず所謂一犬虛を吠へて萬犬實を傳ふるの嫌なき能はず實に痛惜に堪へざるなり、余敢て輸出稅の全廢を以て非なりとする者に非ず唯其事の尙早に過るを知る寧ろ輸出稅を以て蠶業家の奬勵費に充てられんことを希望する者なり聊か要綱を左に陳じ以て同感の士に告ぐ矣、蓋し吾國の商業は未だ幼稚なればなり「斯く言はゝ人或は之を難せん近來我國輸出業頗に進み年を逐ふて盛大に赴くにあらずや何を以て幼稚なりと稱するや」と余は之に答ふるに躊躇せざるなり曰く是れ我商賈未だ舊に海外直輸出をなさゝるの故を以てなり

我國蠶絲に課する稅率は百斤に對し一分銀六十五個而して一分銀を三十一錢五厘とすれば即ち二十三圓六十二錢五厘にして海外輸出品中の最重稅なり「反對論者曰く全國數多の輸出品稅を概算せば年々百四五十萬圓の巨額に上るを以て此の一大城壁を撤するは目下の急務にして實に此一大堡障のあるありて我國の海外貿易を阻礙したるものなりと」其論旨や適切劃當なりと謂ふ可し、然れども全廢論者にして單に此巨額の輸出稅が直接に當業者を利するの感想を抱けるは現今の商勢未だ必しも其然らざるものあるを知らざるに因る、今茲に二駿馬あり其一荷を負ひ互に遠距離の間（直輸出をなすとき）を走るとせんか言を俟たずして荷を負へる一馬の疲勞大なるや明けし然れども若し互に短距離の間（產賣するとき）を走るとせんか二馬の勞倦大差なかるべし善し縱令疲勞少しく差ありとするも一馬は其荷物を戒る目的地迄運搬し來れるの効力は決して掩ふ可らず、奈何となれば昨明治二十七年度八月十三日より米國に於ては絹織物の輸入稅百分の十を減ぜしより內商等は必ず外商が八分乃至一割の高値を以て買入るゝならんと歡喜したるの効空しく水泡に歸し全く思惑外れにて其利潤は案外に少きを見

ると次表の如し

毎月絹羽二重原料生絲縱横平均相場、九貫目に對する織上費用、生絲原價費用の合計、絹練り上りの量、絹百目に對する實價、市毎の市價、百目に對する利益、米國爲換相場、金貨に換算すれば

（桐生市場の相場に據る）

月次	原料の生絲縱横平均直段	九貫目に對する織上費用	生絲元價并に費用の合計	九貫目に對する絹練上りの量	絹百目に對する實價	市毎の市價	百目に對する利益	米國爲替爲換相場	金貨に換算せば
二十七年一月	三六〇、〇〇円	四〇、〇〇円	四〇〇、〇〇円	六、七五〇匁	五、九三円	六、一〇円	一、七〇銀	六四、五弗	三、九三、四五
二月	三五八、〇〇	同	三九八、〇〇	同	五、九三	六、一五	二、二〇	五〇、〇三	〇七、五〇
三月	三六五、〇〇	同	四〇五、〇〇	同	六、〇〇	六、三〇	三、〇〇	四七、五二	九九、二五
四月	三七〇、〇〇	同	四一〇、〇〇	同	六、〇七	六、五五	四八、〇〇	五〇、〇三	二七、五〇
五月	三五六、二五	同	三九六、二五	同	五、七二	六、三五	六三、〇〇	五〇、五三	二〇、六七五
六月	三四八、七五	同	三八八、七五	同	五、七六	六、四〇	六四、〇〇	五〇、〇三	二〇、〇〇
七月	三四二、五〇	同	三八二、五〇	同	五、六七	六、五〇	八三、〇〇	五一、〇三	二一、五〇
八月	三三七、五〇	四五、〇〇	三八二、五〇	同	五、六七	六、五〇	八三、〇〇	五一、〇三	二一、五〇
九月	三五〇、〇〇	四五、〇〇	三九五、〇〇	同	五、八五	六、六五	八〇、〇〇	五一、〇三	四九、一二五
十月	三五五、〇〇	五〇、〇〇	四〇五、〇〇	同	六、〇〇	六、七〇	七〇、〇〇	五二、〇三	四八、四〇
十一月	三六五、〇〇	五〇、〇〇	四一五、〇〇	同	六、一五	六、七二五	五七、五	五〇、〇三	三六、二五
十二月	三七七、五〇	六〇、〇〇	四三七、五〇	同	六、四八	六、七五	二七、〇	四八、五	三、二七、三七五

次に明治十六年度より全二十七年度に至る絹織物の輸出領を示さん

年次	絹布類	乎巾類	合計
明治十六年	二二、七二円	六七、六六二円	九〇、五八九円
十七年	四四、〇二一	一二九、七〇九	一八〇
十八年	五四、五四七	二一二、四四九	二九五
十九年	六一、二五四	七〇八、九七六	八五〇
二十年	一三五、二二四	一、一四六、二八一	一、九五一
二十一年	三五八、〇三四	一、二三三、六二七	一、八五五
二十二年	一、六二三、四五六	二、一〇七、七五八	二、九〇八、六〇七
二十三年	一、一六七、八六八	二、五一六、九四七	三、八五三、五七九
二十四年	一、七六三、七一六	二、八一一、八二〇	四、七八二、七五九
二十五年	四、四三四、一七八	三、四九四、四七七	八、二五一、〇九六
二十六年	三、五三三、六〇四	三、五二一、三八五、八九九、六四六	八、四二九、一一六
二十七年	七、二五四、四七八	三、六五〇、〇〇〇、六二八、一二八	一一、五三三、六〇六
昨年輸出高の增加せるは米國輸入稅の減少に基因するにあらず全く戰勝の餘波より米國需用地の愛顧を增したるなり故に米國が絹織物の輸入稅百分の十を減じたるは日本に利益を與へずして其利は獨り米商の手に歸したるなり			
同	二二、七二円	六七、六六二円	九〇、五八九円
同	四四、〇二一	一二九、七〇九	一八〇
同	五四、五四七	二一二、四四九	二九五
同	六一、二五四	七〇八、九七六	八五〇
同	一三五、二二四	一、一四六、二八一	一、九五一
同	三五八、〇三四	一、二三三、六二七	一、八五五
同	一、六二三、四五六	二、一〇七、七五八	二、九〇八、六〇七
同	一、一六七、八六八	二、五一六、九四七	三、八五三、五七九
同	一、七六三、七一六	二、八一一、八二〇	四、七八二、七五九
同	四、四三四、一七八	三、四九四、四七七	八、二五一、〇九六
同	三、五三三、六〇四	三、五二一、三八五、八九九、六四六	八、四二九、一一六
同	二、二五四、四七八	三、六五〇、〇〇〇、六二八、一二八	一一、五三三、六〇六
昨年輸出高の增加せるは米國輸入稅の減少に基因するにあらず全く戰勝の餘波より米國需用地の愛顧を增したるなり故に米國が絹織物の輸入稅百分の十を減じたるは日本に利益を與へずして其利は獨り米商の手に歸したるなり			
元來外商は我生絲百斤が大凡そ八百數十圓の價値ある品にても輸出稅其他の雜費を要するを以て常に時價より數六圓の安値即ち八百圓前後位にて買入るゝを常とす、今日本が輸出稅を全廢せば外商等は生絲百斤に付き貳拾三圓六拾貳錢五厘丈拂はずして濟む故輸出稅丈は高く購ふて可なれども這は人情の常として多く利するは誰しも辭せざる所なれば少しは高値に購受くるやは知らざれども決して輸出稅丈は高く買はざるは推理上明にして是れ又自然外商の利に歸するものなり故に吾人は輸出稅全廢は焦眉の急にあらずして直輸出こそ目下の一大急務なりとす如何となれば輸出稅全廢は我內商が直輸を

なすの時に當て初めて(俗に目の上の瘤を去りたると同理にて)一大必要として當業者に直接の利益と幸福とを來すものなれば吾人は機熟するの時に於て大に全廢論に左袒すべし然れども已に述るが如くなるを以て敢て舊慣を墨守するを喜ぶ者に非ず寧ろ從來の輸出稅を以て蠶業者の奬勵費に充てられんことを望むものなり世の當業者宜しく活眼を開て現今の商勢に注意あらんことを冀ふ

◎信濃上田太郎君が蠶種檢査法案に就き貴衆兩院議員諸公に與ふるの書を讀む（前號の續き）

栃木縣會員　關根　鑿次郎

君第四證明に曰く需用者の多くは蠶種の眞否を鑑別するの眼識に乏しく一意價の低廉を競ふの結果往々粗種を徼むるの不幸を見ること

需用者の多くは今君の述る處の如し左ればこそ益々檢査法案斷行を希望せざるべからず

君曰く蠶種商は最も信用を重んずるの商人にして殊に永遠の事業たるを以て一時を瞞過せんとするが如きものなし名あり家ある蠶種商は平素と雖も其品格を墜すが如きことを爲さゞるは實に古來よりの慣性たり余曾て或る老農に聞く曰く云々

如何に利己一片の種屋迚求めて粗製濫造は爲さゞるべし然れども人間の免れ難き利と欲とには暗み易きためしや遂此位彼位と非道に向つて歩を進め尙ほ且つ手前鑑なるもの手傳ひて其非を瞞過す君夫れ外觀是れを見ること難くは請ふ種屋の內幕を解剖して試みに顯微鏡に照し看よ其不潔謂ふべからざるものあるを悟るべし君は現に此境遇に處しつゝあるなりとの文句に由て觀れば矢張種を營む人なるべし君の如く正直正統の種屋而已打捌はゞ何んぞ多少の費を投じて檢査を實施するの愚あらんや君若し一顧せられんか中々ゾー捌はぬ爲めに法案斷行の急務を論ずるの止を得ざるなり迷夢猶ほ覺むる能はずんば請ふ蠶種檢査法の實施ある縣下を巡視せられなば正直の考とは霄壤當ならざるとを悟るなるべし

君が本論中地方の產を以て信州或は奧州本場產云々の記事あり

其本場と尊み地方と賤む愚論の最も甚しきものなり本場と稱し來りたるものは古き養蠶地にして古くより蠶種を製造するにより種屋自身が唱へ來りたる自尊の稱なり蠶種の善惡素より地方本場の差別あちんや是れ本論に用なしと雖も敢て一言す

君曰く近來蠶業の開くるに隨ひ蠶種の販路廣汎に涉り從來種屋以外の者に在て蠶種販賣の業に從事するもの年毎に增加し舊來名聲を博したる蠶種家の名義を僞り粗品廉價に販賣するものあり而して此類の徒は多くは其氏名を詐稱するを以て其所在を知るに由なく隱顯出沒鬼火も尙ほ啻ならざるより其蠶種の善否なちん事を求むる焉んぞ得べけん

肝商の徒隱顯出沒需用家を僞り失敗を取ちしむるの實況尙に君の言の如し由是觀之も法律を以て此弊害を取締の必要あることを悟るべし君の如く需用家の幼稚を謂て焉んぞ得べけんやと見離し之を矯成する途なしとせば其弊害や尙ほ是より甚しきに至るべし需用者が幼稚にして精粗を鑑別するの眼識なきが故に檢査愈々其必要を感ずるなり

君曰く是等の徒は如何に嚴重なる法律を以て之を制治せんと欲するも到底制治し得られざるなり其法嚴なれば之を潛るの術又愈々密ならん否反つて彼等に官印を捺して不正の蠶種を責濡するの好便

会を與ふるのみ

君は如何なるものぞや無理鎗に放任を主張す放任し置けば弊害自ら止むべしと云ふにあるか法嚴なるが爲めに肝商の詐僞を逞ふし官印を僞造し販賣に好便宜を與ふべしとは餘り不當の論ならずや

君曰く彼等（法案斷行論者を指す）は口調を國家蠶業の衰態に藉り蠶種の粗製濫造を咎むと雖も是れ未だ其實を得たるの論議にあらず統計に僞りなし實に左の進運を致すを示せり

君は二十年より二十四年に至る五个年間に於ける繭產額統計を揭げ繭產額の次第に增加するを示して進歩上檢査必要なきことを熱心に論じたれども是れ何等の迂論ぞや今や如何なる地と雖も桑を植へざるの地なく蠶を飼育せざるの地なきに至れり而して蠶種搭立枚數の增加と桑園の年々增加し來るを見ば繭產額の年々增加するは當然の事とす檢査必要なしとして證言するの價値あらんや余は今茲に斷言せんとす自今檢査法を實施し蠶種の製造を嚴正にし健全無毒の蠶種を製造せしめ不良の蠶種地を掃ふに至らば國家蠶業の著しき進運を見る蓋し疑ふべくもあらざるなり

●統計

◎二月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計

種目	數量	元價	收稅
生絲	一四三、七一二斤	一、一五四、〇八三円・〇九〇	三三、九五二円・七〇二
玉絲	九九九	三、七〇〇・〇〇〇	六二・六五四
撚斗絲	一八九、六八三	一九二、九四八・三四〇	四、四八一・七二九
屑絲	一六三、二三九	一四六、〇三七・八〇〇	一、一五六・九六七
空繭	九、二一一	九、二一一・五〇〇	二〇三・一一五
眞綿	一、八六四	二、九四一・八八〇	一一七・四三三
屑眞綿	二一、〇〇〇	一、四七〇・〇〇〇	七三・五〇〇
合計	五二九、七一一	一、五一〇、三九二・六一〇	四〇、〇四七・六五〇

◎二月中絹布類輸出數量及元價統計

種目	數量	元價
縮緬	一六反	二〇八円・〇〇〇
羽二重	五八、五一五	八七三、〇〇〇・三六〇
他の諸絹布類	二〇、三六五	二三五、一〇九・六二〇
絹綿布類	一五四	九八二・〇九〇
絹布手巾	九一、三二二打	三〇九、〇九〇・九八〇
絹製品類	——	六三、四二一・四七〇
合計	七九、〇五〇反 九一、三二二打	一、四八一、八一二・五二〇

問答

◎蟻の變色に就き質問

岐阜縣益田郡上原村
大日本蠶絲會過常會員　細江省吾

毛蠶は黑色なるを常とすれども稀に赤黑色なるものあり其の原因及結果如何

答　大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

稀に赤色を帶びたる蟻の混ずることあるの原因未だ詳かならず然れども其蠶種健全にして貯藏催青に間然する所なければ其結果常蟻と異なるを見ず

◎一化蠶飼育の件に就き質問

岐阜縣益田郡上原村
大日本蠶絲會過常會員　細江省吾

一化蠶固有の性として一び華氏四十度以下の温に觸れざれば發生せずと云ふ果して然らば一化蠶は熱帶地方にては飼育し能はざるや

答　大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

一化蠶は華氏四十度以下の温に感ぜしめざれば發生せずとは人工越冬法試驗の結果よりして稱道する所なるが芝山直清氏の最近の試驗の結果に據れば冬季常に七十度前後の温を保ち寒中尙五十七八度に降れること僅かに二回に過ぎざるも一月中旬より少しつゝ發生し三月に至りて盛んに發生せり熱帶地方のとは未だ經驗せざる所なるが夏期の再生を促がすときは兎に角時季の早晩を期せざる限りは必らずしも四十度以下の温に感ぜしめざるも尙其發生を見るや明らけし

◎微粒子毒及其他の件に就き質問

岐阜縣益田郡上原村
大日本蠶絲會過常會員　細江省吾

(一)微粒子及白彊蠶等の菌徴は何度の温にて撲滅し得べきや

(二)「タレコ」「ウミコ」等の毒は微粒子白彊蠶の毒の如く蠶室蠶具等の媒介により翌年に及びても傳染を逞ふするものなりや果して然らば其の撲滅の良法如何

答　大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木忠二郎

(一)微粒子は華氏の二百度内外にて死す

白彊蠶の菌徴は何度にて死するや知らず但し華氏の二百度内外ならば死するならん

(二)「タレコ」は泰西人の説に依れば遺傳と傳染とにて蠶兒を斃ほすものとなせり故に「タレコ」に罹れる蠶兒の多く發生する時は此病蠶兒中より幸ひに蠶蛾に化生したるものあるにもせよ是等の產みたる蠶卵は飼育せざるを良しとす傳染を防ぐには飼育の方法を宜くし蠶具蠶座を清潔にするに如くはなし但し甲種の蠶兒は著しく「タレコ」に罹れることあるも其側に飼育せる乙種の蠶兒は尠しも同病に罹らざることあり是れ他なし「タレコ」は健康の蠶兒は之を侵すこと尠くして疲弱の蠶兒は之を侵すこと極めて多きに在るが如し故に「タレコ」を避けんとするには飼育法に注意するは勿論なるも尙ほ此上健全の蠶種蠶兒を選擇すること極めて肝要なり

「ウミコ」は傳染する者に非ず呼吸不完全より起るものなり詳細なる事は余の著せる農蠶と表せる書冊に就て見らるべし

◎蛹の病毒檢査法質問

岐阜縣益田郡上原村
大日本蠶絲會過常會員　細江省吾

蛹の病毒微粒子檢査法如何詳細教示を乞ふ　大日本蠶絲會技藝委員　芝山直清

答

蛹の微粒子毒を檢するには蛹を磨碎し之に苛性加里の溶液を加へ顯微鏡に照して病毒の有無を檢査し以て其割合を定むるの外別に方法あるを聞かず

◎蠶種貯藏器の件に就き質問　岐阜縣益田郡上原村　大日本蠶絲會通常會員　細江省吾

蠶種貯藏器内外函の間に入るゝ鋸屑は樅と杉と比するに杉は熱の不好導躰たること樅より甚し然れとも香氣は樅より多しと云其甲乙利害如何且蠶種貯藏器に用ふる鋸屑は松樅檜杉の四者優劣如何

答　大日本蠶絲會技藝委員農學士　本多岩次郎

樅と杉との導熱性の差異は知るを得さるも同しく樹木なれは大差なかるへしと信す且つ蠶種貯藏器に用ふる鋸屑の効は木質よりも寧ろ之を入るゝの間隙の徑及屑の粗密によりて多少あるものなれは孰れを用ふるも大差なかるへし又た松樅檜杉の四者優劣は未た試驗せしことなけれとも前に述へたる理由によりて孰れにても大差なかるへしと信す

◎萎縮病に罹れる桑の件に就き質問　新潟縣北蒲原郡三森村　大日本蠶絲會通常會員　大野捨太

桑の萎縮病に罹りたる葉を蠶兒に食せしめて害あるや否や害ありとせば如何なる害ありや教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員農學士　本多岩次郎

縮葉病の原因は未た判明ならさるも該葉は發育の充分ならさるものなれば滋養分に乏しきこと知るべきなり故に此桑葉を以て蠶兒を飼育せば決して充分の作を得ること能はさるものなり余は先年此葉を以て夏蠶を第四齡飼食より飼育せしに其發育甚た不完全にして熟蠶に至り其躰量を檢せしに百頭に就き普通の桑葉を給したる蠶兒は六十匁ありたりしが縮葉を給したるものは僅に五十一匁に過きざりき又收繭量を調査せしに蟻量一匁に對し普通桑葉育は上繭のみにて二斗三升縮葉育は一斗二升に過きず即ち殆んど半作の收穫を得るに過きざるなり右は蠶兒第四齡飼食より給與したるものにして斯の如き差違あり況んや掃立より直に此縮葉を給するときは其害實に少々ならざるべし

◎蠶業收支計算に就き質問　山口縣玖珂郡新庄村　大日本蠶絲會通常會員　小田勢助

氣候と地方により固より一定ならざる可しと雖も養蠶家の目標となるべき即ち桑園一反歩の植付費より得る收支の計算表御教示ありたし

答　大日本蠶絲會技藝委員農學士　本多岩次郎

桑園一段歩の植付費は固より土質、栽植苗の多寡及其の代價等により一定ならざるも概ね左記の費用なれば大差なかるべし

金十八圓八十錢

内

金七圓五十錢　開墾並に整地三十人（一人二十五錢）

金四圓二十錢　桑苗六百本（一本七厘）

金三圓　穴堀十二人（一人二十五錢）

金一圓六十錢　堆肥二十荷（一荷八錢）

荒地より桑苗植付までの諸入費

金二圓五十錢　植付十八（一八二十五錢）

又其收支計算は地方により多少の差あるも一段歩に對し本邦平均收支を上中下の三段に區別せば左表の如し

	上圖	中圖	下圖
公租	一圓二十七錢九厘	八十九錢七厘	四十九錢八厘
其他	九圓十一錢三厘	八圓四十五錢三厘	七圓七十三錢五厘
載培費	十圓三十九錢二厘	九圓三十五錢	八圓二十三錢三厘
計	十八圓五十八錢五厘	十四圓四十一錢四厘	十圓三十三錢四厘
收入	八圓十九錢三厘	五圓〇六錢四厘	二圓十錢一厘
差引益			

●外報

◎二十七年佛國養蠶の景況

昨二十七年に於ける佛國養蠶の景況に關し里昂駐在帝國一等領事宮川久次郎氏より二月五日附を以て左の如く其筋へ報告ありたり

佛國農務省の報告に據れば昨年當國繭の收穫は一〇、五八四、四九一基にして一昨年の收穫九、九八七、一一〇基に比し少量の增加を示し使用したる蠶卵は一昨年に於ては二二五、〇一二「オンス」なりしが昨年は增加して二四〇、七九六「オンス」に昇れり今此增加を來したる源因を求むるに一昨年の好收穫に際し恰も繭の高價なりしが故を以て養蠶家に多少の刺擊を與へたると養蠶保護法の實施に因らずんば非ず即養蠶に從事する者の數は昨年に於ては一五四、七三三人にして是を一昨年に比すれば四分弱の增員なりき

該報告は養蠶奬勵上實施に聯關して取調べたるものなれば假に精確なるものと見做し其報告中本年の蠶兒飼育に供する爲め養蠶家が貯へたる原種の分量を見るに昨年間全國を通じて原種製造の爲め用ひたる繭は二六一、七三六基より得たる原種は七〇〇、九五〇「オンス」にして之を一昨年より昨年に持越したる原種の量に比するに三割强の增加を示せり故に若し幸に天候の順を得て桑葉の供給に不足なければ本年の收穫は昨年に比し從ひて多量なるや疑を容れず

抑々當國に於て養蠶業の最も盛なるは南部アルデーシュ、ガール、ドローム、ウオークリユースの四縣にして尙ほ他二十四縣に多少行はる今昨年間全國の產繭高を擧ぐれば左の如し

縣名	養蠶家の數	孵化に供したる蠶卵（オンス）	繭出來高（瓩）
ガール	三二、〇三二	六二、六四〇	二、八四一、一四〇
アルデーシュ	二六、五〇七	五一、六二九	二、二四九、七一八
ドローム	三一、四〇〇	四四、七二一	一、七九六、八九七
ウオークリユーズ	二一、八九二	二九、七五六	一、四二一、五五〇
イゼール	一三、四三五	一四、〇七九	五五七、九二一
ヴアール	六、七七三	一〇、七一八	五三六、三三五
ブーシュ、ヴユ、ローヌ	七、二九一	八、四〇七	三三四、三七〇
エロール	三、六一〇	五、三八七	二五一、四〇一
バス、アルプ	三、六〇二	三、二二〇	一五九、〇九四
ロゼール	二、一五三	三、〇五〇	一〇五、三九四
其他	七、〇三八	七、一八九	三二九、六七一

合計	一五四、七三三	二四〇、七九六	一〇、五八四、四九一	
千八百九十三年	一四八、九七一	二二五、〇一二	九、九八七、一一〇	
千八百九十二年	一四一、四八七	二二七、一五六	七、六八〇、一六九	
千八百九十一年	一三九、四八〇	二三五、六三一	六、八八三、五八七	
千八百九十年	一四二、五五六	二五三、九一五	七、七七九、四二三	
千八百八十九年	一四一、一〇一	二五四、一六五	七、四〇九、八三〇	

原種一「オンス」に付繭の平均出來高は一昨年と大差なし即ち一昨年は四四基九八四、昨年は四三基九五六なり

昨年間產地生繭の相場は總躰出來高の九割五分を占むる所の全黃種一基に付二法六十仙にして一昨年の四法三十四仙に比すれば大なる下落なりしなり

◎佛國養蠶景況

佛國養蠶の景況に就き在佛國里昂宮川一等領事より其筋への發電四月十七日東京著其報告左の如し

佛國に於ける蠶卵の孵化は氣候の遲れたるため殆ど三週間遲かるべし昨年繭の價格低かりしに依り本年の收繭額は著しく減少すべき見込なり

◎紐育に於る本邦生絲の景況

三月十四日附を以て紐育本邦領事館より其筋へ左の如く報告ありたり

今日の狀況より判斷すれば米國に於ては歐洲產品より寧ろ日本絲を吸收するの傾向あり最も伊太利絲にして市價下落する時は此限にあらずと雖も顧る期し難き事なりと云はざるを得ず廣東及支那產の器械絲は着々歩捗を進めつゝあり此等產品の形狀及び清潔の二點に於て日伊兩產に同一の地位に達するときは爰に一大競爭を發し且同時に日伊兩產の販路を妨ぐるものあるべし近日の輸入品は各種共に好く整頓せり獨り日本產繰返絲は横濱に於ける市價比較的に器械絲より高價なるがため品數稍少なきが如しと雖も日ならず充分の供給をなし得べし云々

◎リーチル氏人造絹絲

左の一篇は本年一月發兌の米國絹業雜誌より抄譯せるものなり

獨逸ツーリヒの化學者ドクトル、フリードリッヒ、リーチル氏は既往九年間研究の結果に依り人造絹絲を製造するの方法を明かにしたるに同氏の方法に從ひ絹絲を製造することに就き英國グラットフォルドに於て二三の報告をなせり而して其報告に依るに同氏の方法は今日迄に人造絹絲の製造をして空しく無効たらしめたりし種々の難難を避け得べしとなり

リーチルの方法に依るに非常の美色を有し其彈力亦普通蠶絲に劣らず而も其光澤に於ては最上等の蠶絲に均しき細纖なる纖維は理化學的の作用を用ひ複雜ならず又多く費用を要せずして安價なる原料より之を製造し得るは疑ふべきにあらず

人造絹絲の製造に用ひたる數法の特點に就て今日迄に研究せざりし人に向て特に注意を望むべきあり即ち現今迄の製造法は總て同一の基點より起るものにして之れを換言すれば總ての植物纖維例へば木材　亞麻、木棉及「ヂユート」の如きは酸類及「アルカリー」液により溶解して化學上「セルロース」（纖維素）と稱するものに變更するものなり更に之を細言すれば各植物纖維は單一なる細胞纖維たるに外ならずして即ち細胞膜を形成するが爲めに植物細胞中の活力を存する蛋白質の汾泌する物質たり「セルロース」は實に材片及木棉「ヂユート」及他の紡績用品の殘滓より之を造るを得るものにして此物

は即ち人造絹絲の基礎たり

硝酸を「セルロース」に加ふれば直に硝酸鹽となり或は之に硫酸の少許を注加すれば硫酸は水と化合す強度の「セルロース」の硝酸鹽は爆裂性を有し「アルコホール」及「エーテル」の混合液に溶解せず現時爆裂物の數種(コルダイト、トナイト等)の如き亦た此種の硝酸鹽に屬す弱度の硝酸鹽即ち「パイロキシリン」硝酸鹽は爆裂の度弱くして「アルコホール」及「エーテル」の混合液に溶解す此混合液(アルコホール及エーテルの等分)に溶解せる普通の「パイロキシリン」は其性質膠質なるも粘稠の度は薄弱にして實に能く解されたる魚膠の如し

然れども「セルロース」の七分以上を有する溶液は其膠質の度餘り弱からず而してシヤルドンチー氏の方法に於ては紡績するに適すべき纖維を製するに充分なるべき細孔を通過せしめんが爲め此溶液に非常の壓力を加へたり之れドクトル、リーチル氏は「パイロキシリン」を取扱ふに特別に注意を加へたる點なりとす「アルコホール」及「エーテル」の混合液の溶液に稀薄硫酸を注加するときは此硝酸鹽は化學的性質は依然たるも其理學的性質は變更するに至る故に充分流動すべき十二分の溶液を造るを得從て簡單なる方法を以て之を操作するを得べし

左圖(圖は畧す)は「リーチル」式器械の概畧を示すも其必要なる部分は之を示さゝるにより充分完全なるものにあらず且余輩は今日之れが詳細を記載すること能はざるのみならず之れが必要を見ざるなり此圖に依れば溶液を保てる玻璃瓶は兩側に支へられ器械に沿ふて玻璃管を見るべし只た其出口は見る能はざるべし此出口は水槽に置ける人造蠶兒を固着せるなり又別に二本の棒あり其上に人造蠶兒より送りたる絲を卷き後ち絲管に轉送するものとす左記の文字は器械の働に就き簡單にして能く盡せるものなり

淡黃色にして粘潤せる溶液は玻璃瓶に容れられ之れより細孔を存せる玻璃屈曲管の一列に溶液を送る此等の管は淺き水槽に裝置せらるゝも其細孔は水面上にあり溶液は細孔を離るゝに當て水は溶藥の六割を分離して直ちに凝結せられ以て非常に美麗なる光澤を有し若し之を乾燥すれば柔韌の性を帶ぶる纖維に變ず此の纖維の半打を一束とし絹絲及羊毛を紡績すると同じく其要する撚絲の大小に從へる速力を以て之を紡績するなり

紡績するに際りては纖維は直ちに乾燥して全く固形軸となり其乾燥する時に水分の殘餘を全く分離す其卷絲は顯微鏡若くは化學的實驗に依るの外實用上全く緯絲と同一なりとす然れども之を充分乾燥するときは高度の可燃質を有す是に於て第三の作用即ち脱硝酸作用を行はざるべからず即ち硫化「アンモニア」を以て纖維を洗ふときは硝酸は脱散せられ後ち再び之を乾かすときは全く可燃性なきに至る硝酸を脱散するときは化學上全く普通絹絲と異ならざるに至るなり

此人造絹絲は實用上効益を有するや否やの疑問は此製造上に大關係あるものにして之に對する應答の世界上の絹業者に影響する處大にして余輩は今日迄に發表せる事實を引用して之に答へんとす

英國マンチエスターの織物雜誌は曰く

此發明は織物工業上に重大なる價値を有す何となれば其製品は實に柔軟及美麗の點に於ては最上の支那絲及伊太利絲に等しく之を他の纖維と混用するときは各種の裝飾用織物は現時に於けるよりも

安價を以て之を製織し得べければなり且此製造は氣候、温度、土壤若くは耕耘に關することなきが故に之を供給し能はざるのことなし只だ消費者に於て之を欵待するに至るは幾分か長日月を費すべしと雖も此人造絹絲を使用するの區域は甚だ廣濶にして實用上功効を奏するの時機は甚だ遠からざるを信ず

人造絹絲の標本を英國ブラッドフォルト共立生絲檢査所に送りたるに檢査所の報告は大に之を賞贊したり即ち左の如し

第一　余に送られたる標本は蠶絲の小片をも含まざる純粹人造に係る

第二　同量の伊太利絲と其强力を比較したるに百に對する六十八なりし

第三　蠶絲は彈力僅少にして之を伸長するときは其原形に復せず人造絹絲亦た然りとす然れども伸長の性質は稍や大にして人造絹絲と蠶絲との比は百に對する七十三の割合に當る

第四　織度秤定後其平均同一直徑を有するものゝ重量を比するに人造絹絲は蠶絲よりも七、二五ペルセント多し

第五　長さ均しき兩絲を見るに人造絹絲は蠶絲よりも其細大の點少なし

第六　人造絹絲は蠶絲に比して顏料を取ること甚だ平かにして美色を呈す

第七　人造絹絲は沸煮及洗濯の度酸類若くは「アルカリー」に堪ゆること蠶絲に均し

第八　光澤は最上の蠶絲に均し故に其装飾上の價値は遙かに梳絲の上に位す

第九　硝酸を脱落せる場合にありては木綿よりも可撚質少なく如何なる狀態に於ても充分之を保存し得べし又今日迄試驗せる脱硝酸人造絹絲よりも可撚質少なしとす

事務長「ウヲルター、タウンゼンド」

ロンドン府リンコルン村の「クロス、ベウハン」商會は亦た此新絲は將來好望を屬すべきを報せりマンチエスターの織物製造雜誌は之を實地に施して蠶絲と比較するの好機を得たるを喜び遂に左の如く記述せり曰く人造絹絲の使用せられたる度合に依り且之を緯絲とせる織物の各種に就て之れを察するに「リーチル」人造絹絲は將來有効の絹絲たるを疑はざるに充分の理由を存すと又マンチエスターの織物新聞は近頃此絹絲はマンチエスター及ブラットフォルドに於て流行する織物を織るに適するや又俵造若くは箱造として遠路に送るを得るか其他氣候の變化に由て害せらるゝことなき等種々の疑問を設け此疑問は實驗の後にあらざれば答ふること能はざることを述べたり其他英國の有力なる雜誌は曰く

人造絹絲に對する考案は百六十年以來のことにして人造絹絲を製造するを得ることは千七百三十四年の頃「ルーマー」之を表明またり以後長日月の間種々の實驗に依り化學の力に依り天然と競爭するに充分の望みありて人工は天然手工の一部を奪去るを得ることを認めたり「リーチル」人造絹絲は遂に此事業を成就またりしなりドクトルリーチル氏は二年以前に英國に於て專賣の特許を得たり又一方にありては伯爵シャルドンチーの絹絲は千八百八十四年以後之を耳にすること屢々にして佛國に於て之を製造する一會社は六百萬法の資本を以て一千八百九十一年同國プレー、ドー、ウチーに於て組織せられたり且外國に對する專賣特許を得んが爲め二千萬法より少なからざる資本を以て會社を設立するのことを聞きたるも今日は更に之に就て耳にまたることなかりしなり而して此絹絲は可

撚質にして實用に堪へざることを證せり里昂の織絹者なるマリー、モイレー氏は曰く此絹絲は沸煮に堪ゆる能はざるのみならず之に染色するの區域は甚だ狹少なりと然るに「リーテル」絹絲には以上の反對をなすものなきのみならず甚だ簡單なる試驗に依るも可撚質としての危險なきを證するに足れり只だ此絹絲に對して考察すべきは之を安價に供給し得るや否やの事にありとすリーテル氏の謂ふ處に依れば蠶絲の半價を以て之を生產し得べし此場合に至らば余輩は此絹絲の將來に好望なるを信ずるに餘りあるなり

●雜報

◎第五回聯合共進會繭生絲審査報告

昨二十七年七月十日より八月二十八日に至る五十日間石川縣金澤市石川縣勸業博物館內に於て開設せられたる第五回關西府縣聯合共進會は畿內、中國、四國、北陸等の地方即ち京都、大阪、兵庫、奈良、岐阜、福井、石川、富山、岡山、廣島、山口、香川、高知の二府十一縣より成立し其地方に於ける重要物產たる繭、生絲外十一種を其聯合各府縣より出陳せり農商務省は審査長以下數名の審査官を特派して其出品物に就き審査せしめられしが繭、生絲の審査官は農商務技手高橋信貞氏にして其出品繭は六千五十七點此出品人員は四千三百九十一名又生絲は五百四十五點にして此出品人員は五百三十三名なり而して之れが審査の結果として繭に優等者五百五十二名生絲に優等者百十名を得て各其賞を受くるに至れり同氏が繭、生絲に就き報告せられたる審査上の事項は當業を稗益する尠からざるべし之を左に揭げ以て當事者參考の資に供す

第一　繭

器械檢査を加へたる繭の纖維に就き其細大と長短とを比較し聯合府縣出品繭の實力如何を示す左の如し

繭纖維細大長短調査表

府縣名	器械檢査點數	纖維 二デニール五以上 歩合	纖維 三デニール五以内 歩合	纖維 四デニール六以内 歩合	尺度 五百回未滿 歩合	尺度 五百回以上 歩合
京都	二七三	一、六	二四〇	一七	一七、三	一〇〇
大阪	三一	〇	二三	八	六、三	一四
兵庫	七六	〇	六七	九	一七	三四
奈良	六四	〇、三	四七	一、二	五、五	四、六
岐阜	九二	一、一	七七	一、五	四二	三、九
福井	二〇六	〇、一	一四六	一、三	二、五	六、一
石川	五〇九	〇、三	七、〇	一四	四、五	四七
富山	一七	〇、三	八、五	二、八	五、〇	五、〇
岡山	三九	一	三、二	六〇	一、二	一〇四
廣島	一〇九	〇、一	八、二	一、五	二八三	二二六
山口	三〇六	〇、一	八、九	一、〇	二七	四、五
	六五	二	九七	三一	七五	六、九
		〇、三	二七四	一、〇	一四七	一五九
			八、九	〇、九	四、八	五、二
			九、一	四	五、〇	三三
			五九	〇、六	三二	五、〇

香川	八二〇	一	〇、一	七二	八、八	九
高知	九二	五	〇、五	七六	八、三	一一
合計平均	一、九四四	五一	〇、三	一、六四二	八、四	二五一

香川	一、二	五一	六、二	三一	三、八	一、二
高知	一、二	三八	四、一	五四	五、九	一、三
合計平均	一、〇五七	五、四	八八七	四、六	一、〇五〇	一、〇〇〇

備考　器械檢査上解舒は何れも良好なるも石川縣出品は稍劣れるを覺ふ纖維は各府縣とも大に失するもの多きを占む蓋し本年蠶期の氣候が高温なりしより或は多少の關係を及ぼせしものにはあらざる歟絲長は奈良、高知の二縣高位地を占めたるものあり然れども之を總ぶるに孰れの地方の出品も短縮の方なりき又調査記表の便を謀り三「デニール」以上三「デニール」五分を合算せり又四「デニール」以上のもの各府縣平均二三點ありしも繁雜を省き四「デニール」以内に合記せり

第二　生絲

左に審査類別表を掲げて以て實力如何を示すべし

生絲審査類別調査表

府縣名	出品總點數	器械審査を爲せしもの	鑑定審査に止まるもの	斤量不足のため審査を缺さるもの	受賞點數	出品點數に對する受賞者歩合
京都	四二	三五	七		二一	五〇、〇
大阪	九	六	三	一	二	二二、二
兵庫	一四	九	五	四	三	二一、二
奈良	一	一			一	一〇〇、〇
埼玉	六二	五五	七		三一	五〇、〇
福井	三七	二二	一五		一〇	二七、〇
石川	一七三	九二	八一	六	一一	六、〇
富山	二八	二一	七	三	五	一七、一
岡山	二二	一七	五		二	五〇、〇
廣島	六	五	一		四	八三、三
山口	六	五	一		二	三六、六
香川	八	六	二		二	二五、〇
高知	二〇	五四	六六		四	二〇、三
合計	五二八	三二八	二〇〇	一七	一一〇	二〇、〇

◎博覽會出品繭の概況

農林館内に陳列されたる出品の繭は無慮三千二百九十九點にして北海道廳以下三府四十三縣中全く陳列なきは獨り沖繩縣あるのみ之を前回即ち第三回内國勸業博覽會出品の總數八千六百八十七點に比すれば實に五千三百八十八點の減少にして其歩合は殆ど三割八歩に該當せり是蓋し今回に在ては出品の數量を五升と定限されたるが爲め娯樂的養蠶者は出品し能はざるの致す所なちん果して推測する所に差はずんば今回の出品こそ實業家若くは篤志家の出品に成れる者にして洵に勸業博覽會の要旨に合へるものと謂はざるへからす且つ前回の出品に比し改良進歩の一證徵として見るべきものは三千有餘の出品中僅二點の黄繭を目擊するのみ亦以て全國斯業の一斑を觀察するに足れり左に出品の概況を記して讀者諸君に報道せんとす若夫れ審査上の成蹟は他日聞く所あるを

俟て更に掲載すべし

北海道廳　僅に九點の出品に過きすして而も其五點は微菌を生し色澤を失へり價格は概ね二圓内外なり

東京府　出品は百零三點にして其觀るへき者は概ね三多摩郡の產に係る價格は三圓内外のもの多し

京都府　百五點の出品中品位の優良なるもの尠からす其價格は區々にして八十錢より三圓迄なり

大阪府　八十四點の出品にして價格は最低一圓七十錢最高二圓八十錢なり

神奈川縣　出品は十三點にして價格は最下二圓最上四圓二十五錢なり

兵庫縣　出品は五十六點にして品位は普通のもの居多なり價格は一圓五十錢乃至二十錢なり

長崎縣　僅々五點の出品あるのみ價格は低廉にして孰れも二圓以内なり

新潟縣　出品は十八點にして價格は最低一圓五十五錢最高四圓とす然れとも二圓のもの多數を占む

埼玉縣　出品の多き群馬縣に次く即ち其數は三百三十六點にして内百十七點は饒進社員の出品に屬す種類は白玉若くは赤熟とす其代價は白玉三圓赤熟二圓許なり高山社員の出品亦二十點あり其他は概ね一個人の出品に係る本縣陣列場の位置は十分に光線を受くるか爲め繭の光澤をして一層鑒白ならしめ觀者の注目惹くの便なり

群馬縣　出品の夥多なる此縣の右に出づるものなし總數四百九十一點の内高山社員の出品百八十二點に居り又饒進社員の出品五十五點の多きを占む此他にも亦二三團体の出品あり而して百八十九點は全く一個人の出品に屬す流石に有名地方の列品なるか故に優等の者多し價格は區々にして一定せず

千葉縣　出品は二十點に過ぎず雖も種類は區々に屬す價格は二圓より五圓に至る山繭の出品一點あり五升五圓の實價を附す其貴きこと實に驚くに堪へたり

茨城縣　出品は三十點にして種類は雜駁を免れず雖も繭質は稍可なるものなきにあらず又微菌に冒されたるものも二三點あり價格は貳圓五拾錢内外とす

栃木縣　出品は二十九點に過ぎざれとも品位佳良なるものあり價格は二圓内外のもの多し

奈良縣　出品の數は十八點にして種類は一樣ならず價格は一圓五十錢以上三圓以下とす

三重縣　九十一點の出品中微菌を生じたるもの數點あり價格は二圓乃至四圓なり

愛知縣　出品は五十三點にして種類は錯雜なれとも品位は稍可なるもの多し其價格は一圓六十五錢以上三圓以下なり

静岡縣　出品は三十八點にして價格は二圓以下のもの多し然れとも其品位は概して觀るに堪へたり遠江國磐田郡見附驛某の出品に支那種の繭あるを目擊せり

山梨縣　百二十九點の出品中金光種一點あり種類は小石丸最多にして青熟、赤熟、鬼繭、白玉、又昔等の各種あり價格は二圓五十錢乃至三圓のもの十の八九に居る

滋賀縣　出品は二百十點にして價格は二圓以下のもの多し故に十の八九は實約濟となれり種類は概して劣等ならざるも光線の通射十分ならざるが爲め固有の色澤を燒發し能はざるの憾みあり

岐阜縣　出品の數は四十八點にして品位は稍可なり然れとも亦微菌に冒されたるもの二三點あり

長野縣　出品の多きは第三に位す即ち二百四十二點にして春蠶あり夏蠶あり秋蠶あり又黄繭一點あり

價格は二圓內外のもの居多なり家蠶繭の外に天蠶繭五點蠶桿繭六點を出品せり

宮城縣　出品は百二十二點にして種類は錯雜なれども品位佳良なるもの多し價格は最低一圓二十錢最高三圓なり

福島縣　百十九點の出品中出殼繭五點あり凡そ出品の半數は伊達郡の產繭に係る價格は概して二圓五十錢以下なれども四圓の賣價を付するもの五點あり

岩手縣　出品の數は五十四點にして一點の非賣品を除く外は賣約濟となれり價格は大抵二圓以內なり

青森縣　僅に九點の出品あるのみ

山形縣　八十五點の出品中品位觀るべきもの多し價格は低廉にして十の八九は二圓以內なり

秋田縣　出品は四十六點に過ぎざるも往々黴菌を生ずるものあり蓋し運搬の途次濕氣を受けたるに由るならん又其品位は觀るべきものなきにあらずと雖も未た劣等たるを免れざるもの多し

福井縣　出品は二十七點にして種類は又昔及白玉多く黴菌に冒されたるもの二三點あり價格は大抵二圓以內なり

石川縣　品位稍劣等而して黴菌に冒されたるもの數點あり價格は概して二圓以內にして出品の數は僅に十點なり

富山縣　出品は八點にして品位は石川縣と伯仲す

鳥取縣　出品の數は三十點にして種類は區々なり而して黴菌を生したるもの四點あり價格は二圓內外にして悉皆賣約濟なり

島根縣　五十二點の出品中又昔多きを占む品位は概して良好なり價格は二圓乃至二圓五十錢にして悉皆賣約濟なり

岡山縣　出品は五十二點にして十餘點は黴菌の冒す所となれり價格は一圓五十錢以上二圓五十錢なり

廣島縣　出品は二十九點にして種類錯雜なるも品位稍可なるもの多し然れとも亦黴菌に冒されたるもの一二點あり價格は大抵二圓以內なり

山口縣　僅々五點の出品あるのみ而して其二點は黴菌に冒さる價格は皆二圓以內なり

和歌山縣　出品は二十點にして價格は二圓內外のもの多し

德島縣　二十九點の出品中黴菌に冒されたるもの數點あり種類は區々にして色澤完美ならさるもの多し代價は二圓以下のもの過半なり

香川縣　十八點の出品中黴菌に冒されたるもの三四點あり品位は稍可にして一圓九十錢以上三圓迄の賣價を付せり

愛媛縣　出品は百三十一點にして品位佳良なるもの多し然れとも繭質緊堅ならさるもの亦なきにあらさるか如し價格は二圓乃至二圓五十錢のもの凡そ十の九に居る大抵皆賣約濟となれり

高知縣　二十一點の出品に過きさるも品位は概して良好にして價格頗る低廉なり乃ち二圓四十錢は其最高價とす

福岡縣　出品は五十五點にして品位稍可なり價格は低廉にして二圓の上に出つるものは僅に二三點あるのみ

大分縣　出品は百五十六點にして赤熟最多く青熟之に次く其他各種類あり品位は概して佳良なり價格は一圓四十七錢五厘を最低とし三圓七十錢を最高とす

佐賀縣　十四點の出品に過きざるも品位佳良にして色澤潤美なるもの多し價格は一圓五十錢以上二圓五十錢以下なり

熊本縣　二十七點の出品中一二黴菌に冒されたるものあれども其他は品位佳良なるもの多し但種類は錯雜を免れす價格は一圓二十五錢乃至二圓五錢にして悉皆賣約濟となれり

宮崎縣　出品は二十五點にして黴菌を生したるもの一二點あり價格は二圓に上るものなし

鹿兒島縣　出品は僅に十點なり種類は區々にして價格も亦不同なり

◎西ケ原蠶業試驗場の蠶況

西ケ原農務局蠶業試驗場に於ては去四月廿八、廿九の兩日を以て大概蠶兒の掃立を了れる由にて其中各府縣より召集せる本年傳習生七十餘名實習の飼育用に供する分は蟻量四十九匁にして之は廿九日に掃立各種試驗に供する分は總蟻量四十三匁餘にして早きは廿四日晩きは三十日に及ひ其掃立を了れりと云ふ同場掛員の談話に據れば本年の掃立は昨年に比し三四日遲れし方にて昨二十七年の掃立其早きは四月二十日晩きは二十六日を以て之を了れり蓋し本年は春來氣候の劇變多く而も冷氣勝ちなりしが故桑芽の開綻四五日晩くそれに準して掃立の期日も斯く遲れしなりとぞ尚同場にて本年行はるゝ試驗の項目は左の如くなりと云ふ

一蠶兒加害試驗

飼育中特に諸種の害を加へて其結果如何を檢し以て飼育改良の資に供せんとするにあり

一蠶蛾撰擇試驗

蛾の健全なるものと否らざるものとより各別に採種し之を飼育し以て蛾躰の健否によりて蠶種に及ぼす害否如何を檢せんとするにあり

一繭質改良試驗

繭形絲質善良なるものを以て製したる框製蠶種を各別に飼育し血統を正ふすれば繭形絲質共に一齊に歸すべきや否やを檢し以て繭質改良の資に供せんとするにあり

一蠶種密藏試驗

百蛾分の蠶卵を一リートル（即五合）の容積を有する玻璃壜中に密藏したるものと尋常の貯藏法を行ひたるものとを飼育し又密閉貯藏のものをして冷所に安置し其發育を晩からしめて飼育せる各蠶兒の強弱を檢し以て蠶種貯藏法改良の資に供せんとするにあり

一交尾時間試驗

蛾の交尾時間をして長短あらしめ以て其適當の時間を檢出せんとするにあり

一桑葉滋養試驗

桑葉の滋養分に富むものと之に乏しきものとを用ひ以て桑葉滋養分の蠶兒飼育上に及ぼす關係如何を確めんとするにあり

一稺蠶飼育試驗

此試驗の目的は稺蠶飼育の成繭に及ぼす關係如何を驗するにあり

一同切繭試驗
此試驗は同切繭の生ずる原因を探究するにあり
一掃立試驗
各種の掃立法を行ひ相互の便否及其得失如何を檢せんとするにあり
一各齡減蠶試驗
蠶兒飼育中各齡に於ける病蠶遺失蠶等の數を檢し以て減蠶の割合を檢するにあり
一蠶の種類試驗
各種の蠶を飼育し蠶兒の强弱發育の遲速食桑の多寡飼育の難易絲量の多寡等に就き比較試驗を爲し以て蠶種改良の資に供せんとするにあり
一催青試驗
同一の蠶兒にして幾千の溫度なれば幾日にして發生するやを檢定し以て掃立の好期を察するの資に供せんとするにあり
一消毒試驗
種々の方法を以て微粒子其他の消毒を試みんとするにあり
一蠶病試驗
各種の蠶病に就き其原因及豫防法等を探究せんとするにあり
一蛆害試驗
桑園の地形桑條の刈方及蠶兒掃立の遲速にあり蛆害の有無及其多寡を檢出せんとするにあり
一掃立早晩試驗
蠶兒掃立を早くするものと之を晩くするものとに於て蠶兒の發育及成繭の良否を檢し而して其衛生上の關係を明かにし又桑葉收穫の多寡を察し以て養蠶經濟を研究せんとするにあり

◎新潟縣の蠶況　同縣に於ける本年の蠶兒掃立は一般に昨年よりは四五日乃至一週間も後るゝならんとのことなり之れ雪の降り積もると遲くして從て融解の期後れたるが爲めなりと然れとも濱原地方は大概五月上旬に掃立らる可く積雪多き山地にあつては中旬乃至下旬に入るべき地もあるへきか（會員横田長太郎氏報）

◎日向延岡の蠶況　本年の季候は昨年に比すれば春來寒冷なりしを以て蠶兒の發生も二週間位は遲かりしならんと思考せしに豈圖らんや三月下旬に至り氣候僅かに六十度乃至七十度の間を昇降し爲めに北海道より購求せし蠶種は孰れも發生したり然るに桑葉は方言彌助と稱する早生桑のみ萠芽し市平、魯桑は勿論其他の桑樹も未だ發芽せず故に彌助桑を摘みて飼育するあり或は水中に投ぜしものも有之次第に御座候地方製の蠶種は本月中旬發生の見込なり北海道蠶種は三四年前より當地方に輸入し結果も良好なれども昨年來は桑葉も無きに發生し購求者は殆んど困難せり是全く當地には充分なる蠶種貯藏室を有するもの無きに因ると信ぜられたり（會員加藤金彌氏報）

◎第二回全國蠶絲業大會　四月二日より四日まで三日間京都に於て開きたる第二回全國蠶絲業大會來會者は二日午前九時同市祇園清々館なる同會事務所に參集す會頭前田正名氏先づ來會者に

告げて曰く、今回の大會たる昨年の大會と異なり一人一個の資格を以て臨席する人は甚だ尠くして多くは各地蠶絲業者の代表者たり故に其言論最も愼重を加ふるを要するのみならず僅に兩三日にして種々の大問題を議了するものにして其事たる到底爲し得べからざるの業なるを以て大概は多く委員に付托し而して愼密に調査講究せらるべしと信ず蓋し今回蠶絲業大會を第一に開きしものは蠶絲季節既に切迫せる等の事情あるが爲めにして敢て他意あるにあらず請ふ充分各自の意見を陳し我蠶絲業の改良進歩を計るに務められんことを希望の至りに堪へずと挨拶了るや一同其旨を承諾し明日の本會議に於て親しく意見を吐露すべき旨を應へて隨意散會せり」三日午後一時京都市會議事堂に於て開會式を擧行せり來賓榎本農商務大臣、渡邊京都府知事を始め無慮七百餘名着席す開會に先ち會頭前田正名氏は場内の正面に揭げ奉りし　兩陛下の御尊影に向ひ百拜して誓詞を謹述す其誓詞左の如し

我々臣民は世界萬國に一ありて二なき無比の幸福を有せり恭しく惟れば開闢以來茲に二千六百年　皇統連綿として唯一の　天皇陛下を戴き而して又唯一の帝國臣民あるのみ上此一天萬乘の　至尊を奉戴せる日本帝國の成立として一致和合の事蓋し國家自然の組織に出づ抑も此美なる國其天兵の向ふ所今日支那の國大なりといふと雖も秋風の枯葉に於けるが如く連戰克捷　皇威八荒に輝く所以思ふに只一の　天皇を仰き奉りて君臣一致の實を表するが爲めなり今や我々實業者は實業軍に從ふて粉骨粹身國家の爲めに盡瘁する所あらんとす臣正名實業者臣民一同に代り實業上の事將來益々一致和合以て其目的を達せんことを天地神明に誓ひ奉らん

と述ぶるや一同最敬禮を行ひ夫れより前田氏は會頭席に着き左の演說を爲せり

本日第二回全國蠶絲業の大會を開かるゝや地方若くは團體の代表者たるべき適應の資格を有して來會せられたるもの其大半を占めたり於是乎本大會は社會に對して益々其地位を重からしめ而かも大會を開設せる本來の主旨をして愈々明かならしめたるものあるは余の言を俟たざる所、來會者諸氏が多年の目的を遂行するの點に於て漸く其地歩を進めたるは實に余の欣喜に堪へざる所なりとす」昨大會を了りて各々其鄕に歸るや諸氏が熱心と勵精とは僅少なる日子の間に於て早くも己に組合を設け團體を結びたるもの續々其報に接せり蓋し第三回大會を開かるゝの日は全國擧げて團結の下に立ち總ての會員は曾其代表者たると余其必然なるべきを疑はす而かも是れ時勢の急要に伴ふの設備なればなり」昨年諸氏が盡瘁の勞に成れる第一回大會の結果として最急緊要の事項に屬するものは之を政府に建議し又兩議院に提出すべき適應の手續を爲せり而して其經過せる詳細の顚末は後刻之を報告せんとす抑も大會の最大目的とする所は速に各地方の團結を組成するにあり而して團結の主眼は蠶絲業に於ける地方の方針を一定するか爲めに外ならず各地方の團結襲なりて茲に全國一致の基ひ立たば全國當業者は一定の針路に由り斯業の振興を計るとを得べし是れ實に大會の唯一に期せる所諸氏亦必ず之を知らん」蓋し一小部分の者眼前の小利に眩迷して其利己の念に專なるが爲め他の大部分に非常の妨碍を與へ又區々一人の意見を主張する爲めに全躰の運行を傷くるとは往々にして之れなきにあらず而かも一小部分の爲めに大害を天下に遺したるもの何ぞ限らん例へば一婦人の爲に社稷を誤まちたるものあり一狂漢の爲めに一國の動搖を惹起したるとあり一小部分の障碍豈之を等閑に付すへけんや」政府は多年蠶絲業に向て幾多奬勵の策を取られたり而も其目的とする所全く全國の當業者をして一定の方針を

立てしむるが爲に外ならざるへきは余の信じて疑はざる所政府の眞意果して如此ならんには一定の方針を確立するか爲めに其前途に横はれる一小部分の障碍に對して深く憂念するの要ある亦何ぞ辯を俟たんや」而して一小部分の人々に勢力を張るべき餘地を與へ彼等をして力を逞ふせしむべき間隙を存するものは全く團結の基礎未だ堅固ならざるが爲にして堅牢拔く可からざるの地盤に立ち彼等をして無勢無力の者たらしめば一二の障碍復た何ぞ齒牙に掛るに足らん否終に障碍者をして共に團結の下に立たしむべきは理勢の當さに然るべき所此に至らざれば全國の當業者をして一定の方針に由らしむる能はざるのみならず團躰組織の効之を一簣に虧くの憾ありとす」夫れ然り而して此に最も注意を要すべきは一小部分の障碍者に對する會員諸氏の心得にして諸氏若し議論を以て之に當らん歟感情的激昂を來すべきは明白の事實にして決して策の得たるものに非ず然らば則ち之を奈何すべきか他なし益々團結を鞏固ならしめ其利害得失を明かにして漸々彼等自らに其非を悟らしむるの策を取るを要す如斯なれば全國一致の目的終に之を達するを得圓滿に斯業の振興發達を期するを得るや必せり」茲に一言すべきは今日迄に正名多少の力を斯業に致せるを以て諸氏或は萬般の事之を正名に一任せるが如き嫌ひなきに非ず是れ大に正名の精神を誤れるものにして正名は蠶絲業上に於て何等の智識を有する者にあらず正名の任務は團結の素地を爲す迄の間各地當業者の中に立ち其聯結の方法を紹介せるに外ならず而して是れ或は正名に必適の任なるとを自任せり今や諸氏已に團結の基礎を定め着々其目的を事實上に發揚せんとするの機に會す紹介者をして永く其間に立たしむ可らざるは固より言を要せざる所第一回第二回の大會に於ては正名諸氏の許可を經ずして會長の席を汚し又各般斡旋の勞に當りたるも第三回よりは諸氏自ら奮て其經營の任に當るべきは當然の務めたり諸氏深く團結を爲せる所以に遵り斯業前途の大方針大目的を遂行するが爲めに大に勵精努力せられんと正名切に諸氏に希望せんと欲す」本年の大會には遠く九州より病の爲に片足を失ひ纔に杖に扶けられて來會せられたるあり又群馬よりは二十四時間の滯在を約して辛く列席せられたるあり旁々數日を此會に費すべからざるが爲め限るに二日を以てせり重要の議案些少日數の間に議し得べからざるのみならず斯る輕々の決議は決して之れを望むべきものにあらず故に宜しく委員を撰定し之に附托して十分の調査講究を盡されんとを是れ亦諸氏に望まんと欲する一要件なりとす茲に第二回蠶絲業大會の開會に際し此言を述べて以て式辭とす

諸氏請ふ之れを諒せよ

次に榎本農商務大臣の告辭あり左の如し

曩に第一回全國蠶絲業大會を開かるゝや會員諸子非常の精神を以て斯業前途の方針を定め着々振興の策を建てられしも當時團結の基礎未だ定まらずして會員の多分は有志諸子個人の資格を以て會合せしに外ならざりしと聞く今や第二回の大會を此地に開くに方り來會者は殆と團體代表者の資格を以てし一人の會員能く數百乃至數千に當ると云ふ何ぞ其盛んなるや蓋し萬般の事業衆人一致の力に非ざれば能く善良の効果を期し難きは疇昔より皆然りとすされば團結の二字たる實業社會に向て殊に必要なるは本大臣の言を待たずして明かなり望むらくば諸子深く此意を體し益々奮て共同の實を擧げ本大臣の無言を以て異日の息壤とせられんとを

次に渡邊京都府知事の祝辭あり左の如し

國の盛衰興亡は兵馬の强弱に繫り兵馬の强弱は一に其國富の多寡に由て決せらる是れ即各國競ふて致富の策を講ずる所以なり抑も吾國の富源は千種萬樣固より一にして足らずと雖も就中輸出業の進歩擴充を圖るを以て第一の要務とす顧ふに我輸出品中其最も重位を占むるものは蠶絲を措て他に之あるを觀ず故に蠶業の進歩發達の忽にす可からざるは今更多言を要せずして瞭かなり而して之を振起し之れを啓發するは爲そ個々單力の能し得べき所ならんや之れを要するに一に當業者共同團結の力に據らざれば到底其目的を遂行する能はず前田正名君心を茲に用ひらるゝ年既に久し其勞劬の偉なる感謝措く能はざる處たり幸に全國の當業者諸氏又其所感を同し遂に日本蠶絲會を組成し其第一回の大會は既に東京に於て開かれ今又茲に第二回の大會を催さる將來本邦蠶業の盛衰は實に本會經營の良否如何に關す其責重且つ大ならずや庶幾くは來會の諸氏深慮以て事に從ひ國家の爲め益々奮勵努力あらんことを式に臨み一言以て祝詞に代ふ

夫より來會者總代波多野鶴吉、安井好尙、金子孫左衛門、青木金治、大橋濟、香川眞一外數氏の祝辭あり、一旦休息後顧問樋田魯一氏は第一回大會の結果として政府に建議し議會に提出したる顚末を詳細に報告し更に第一回大會後各地方の調査の件を促し次に主事福島宜三氏は舊冬以來日本蠶絲會中央本部の經過を報告せしが時既に五時に近付しを以て前田君の發議に一同贊成し大會議案の件に付き明四日午前九時より熟議するに決し散會したり」四日午前九時より前日に引續き開會せるに來集する者無慮七百餘名にして小野惟一郎氏は日本蠶絲會を代表し愛媛蠶絲會發會式に臨みたる顚末を報告し次に前田會頭は日本蠶絲會の組織に付き中央本部を中心とし關東、關西、九州、東北等の各團體を設け一年一回各團體毎に便宜大會を催ふし又中央へは同く各團體より夫々府縣代表者を出し大會を開く組織にしては如何且つ今回の徵章は永久一定のものにせんと述べたるに一同贊成し夫より前田氏は各地共進會品評會等の經費は其會を了りし時出品物を賣却して之に充つるも亦一便法なりと信ずるも別に經濟維持法に名案もあらば承知したしと望みしが之には續々發言者ありしも結局前田氏の言ふ所至便の法なりと云ふに歸し午後一時一同再び入場前田氏會頭席に着き樋田魯一氏議案說明の任に當り一問題毎に可否を諮ひしに滿場一致盡く原案に可決し各府縣より委員一名宛を選定して其委員に附托するに決し前田氏は閉會式を行ふ旨を告げ來會員總代布施孫一郎氏其他數氏の演述ありて散會せり」右の委員は閉會後委員會を開きて附托の諸件を決議せり」第一　各地製絲家團結して品位荷物の一定改良を圖るべき方法は製絲家結合して便宜の地に共同揚返所を設け品位を改良し荷物の一定を計るにあり其規約及細則は同盟者の協議に任す」第二　製絲に適する繭の種類撰定の方法は農務局蠶業試驗場の擴張と各府縣蠶業試驗場の設置を促し良種の撰定をなすにあり」第三　繭貯藏法を講究し併せて金融の便を圖るべき方法は便宜の地に共同倉庫を設け完全なる殺蛹法を行ひたる繭を貯藏し銀行其他の金融會社と聯絡し以て金融の便を圓滑ならしむるにあり」第四　蠶種合同購入の方法は(一)各府縣既設蠶絲業組合にありては其規約を以て之か實行を圖ると(二)組合の設なき府縣にして團體の組織あるものは該團體の議定又は府縣及郡村勸業會の議に附し之か實行を圖ると(三)組合及團體の組織なき府縣にありては日本蠶絲業大會員勉めて幹旋し地方養蠶家を結合せしめ以て之を實行すると」第五　桑樹の萎縮病を除却する方法は(一)病因の調査及豫防法は國費を以てせられんことを政府及貴衆兩院に建議

すると、但し建議案中へ懸賞を以て廣く該病の原因及豫防法を蒐集するの項目を入るゝと(二)日本蠶絲會中央本部は全國當業者中該病の既往現今の情況及豫防法等を講究しつゝあるものより材料を蒐集し之を廣く當業者に報告して該病撲滅探究上の參考となさしむると(三)各地方の團軫は該病の原因を調査し之か撲滅の方法を決議執行すると(四)前項建議の立案は中央本部に委托すると」第六日本蠶絲會中央本部經費徴收の方法は本部の經費は一ヶ年金千二百圓と定め各府縣の負擔とす、其割合は群馬、長野、神奈川、山梨、岐阜、滋賀、福島より各四十圓宛、埼玉、茨城、栃木、愛知、福井、石川、富山、新潟、山形、宮城、岩手、京都、兵庫、岡山、鳥取より各三十圓宛、其他の府縣(沖繩を除く)より各二十圓宛とす」一國庫支辨の蠶業學校を各府縣に設置すると」二蠶業學校及農學校等は農商務省の所轄となすと」三西ヶ原蠶業試驗場の擴張及京都に新設せらるへき蠶業講習所の設置を促すと」四沖繩縣及廣島縣下諸島蠶業調査委員若干名を置くと、但委員は會頭に於て特撰のと」五鐵道にて運送する生絲取扱の件は本部に於て調査すると」六全國を關東、關西、九州、東北の四區に別ち毎區に於て毎年一回蠶絲業者の大會を開くと」七全國の大會は各府縣の代表者を以て組織すると」八各地方に於て繭絲の品評會共進會等を開くときは製產額の多少に應し其出品を義捐せしめて會費に充て尙餘務あるときは確實なる方法を以て貯蓄し蠶絲業上有益なる費途に當つると」九第九議會の開期中は各府縣より一名の委員を上京せしむると、但し代議士へは上京前請願事項の贊成を促し其贊否を豫め本部へ通知すると」十第一回大會の決議及第二回大會の決議を貫徹する爲に要する本部委員は會頭に於て特撰のと」十一本會委員は各團軫聯合大會へ出席すると

◎西ヶ原同窓會　第四回內國勸業博覽會及全國蠶絲業大會の開設に付き京都に集まれる西ヶ原蠶業試驗場の出身者は去る四月五日を以て小集會を同市東三本木清輝樓に開きたり當日來り會したる同窓者は各府縣を合せて四十四名にして博覽會第三部審査官として在都中の岡農商務技師、高橋、松永兩技手も臨席せられ又其他の審査官も來會ありて先づ最初に來七月七、八日の兩日京都に於て同窓大會を催すとを決し其準備は京都府下在住同窓者に一任するとし各準備費を醵出し終て宴會に移りたり此席は鴨川の西涯にありて近く東山を望み山紫水明の地なり此絶景の間に奮を語り新を話し和氣靄々一同歡を盡して退散せるは夜に入りての後ちなりし

右小集會の結果に依り同窓大會準備の責めに當れる京都府下在住同窓者は事務所を京都市室町通姉小路下ル蠶絲業取締所出張所內に置き西ヶ原出身者へ一々案內狀を出したり尤も同窓大會は獨り相會し飲食を以て終るものに非ず將來本業上に働くべき方針をも一定し種々有益なる協議を爲す等にて來會者は同會に於て參考に供すべき問題を六月二十日迄に事務所に提出するとなり居れり

◎蠶業學校の教育費補助　長野縣小縣郡立小縣蠶業學校へ實業教育費國庫補助法に依り本年四月より向ふ五箇年間毎年金八百圓宛交付する旨去る三月十五日文部省より指令せられたり

因に云ふ二十八年度の同校々費は三千二百餘圓にして前年度に比較すれば六百餘圓の增加なるが今後は授業料を半減し教課を增加し更に試驗課を設くるとし農藝化學士一名をも聘するとなせしよし

◎養蠶學校設立建議案の通過　靜岡縣蠶絲業組合取締所本年度通常會に於て二十九年度より

取締所經費の外に縣地方稅及國庫の補助を得て一養蠶學校設立の建議案を出本庄次郎、多米八郎、佐藤辰郎外數氏より提出せしに異議なく同會を通過せりされば本年の同縣會に於て縣地方稅補助の可決を得るに至れば同縣下の蠶業上に一大新面目を開くことを得るならんと會員佐藤辰郎氏より報ぜられたり又同氏は同縣榛原郡蠶絲業組合長及同縣蠶絲業組合取締所議員に當選せられたりと

◎新潟縣蠶業諮問會　同縣に於ては去二月二十七日より各郡蠶絲業組合役員を縣廳内に召集して諮問會を開かれたり

一蠶種取締規則中訂正加除を要する件

一蠶絲業取締規則制裁解除の件

一蠶絲組合事業振興の件

其他數件にして三月二日に至り閉會せりと云ふ

又同縣二十八年度勸業費は壹萬六千百九十九圓餘にして内蠶種檢査費は三千五百八拾四圓三拾五錢なりと

◎飛驒國蠶種檢査成蹟　岐阜縣に於ては蠶種檢査所本部を同縣廳内に設け出張所を惠那郡大井町大野郡高山町に開設せられしことは本報第三拾壹號に記載せしが今同縣飛驒國蠶種檢査成蹟表を會員中野俊太郎氏より寄せられたれば之を左に揭ぐ

岐阜縣飛驒國蠶種檢査成蹟表（明治二十七年度）

一檢査總枚數　三萬四千五百二十五枚